



A Clear Vision For Life®

参天製薬株式会社

CSR Report 2016





編集方針

- 本報告書は、参天製薬および国内外のグループ会社のCSRに対する考え方や取り組みについて、多様なステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えするための年次報告書です。
- 参天製薬グループの社会的責任を果たすための取り組みの全体像を簡潔に報告することを重視し、活動の要点を実践報告にまとめました。活動の詳細は、当社ウェブサイト「CSR(社会的責任)」に掲載しています。
<http://www.santen.co.jp/ja/csr/>
- 事業活動に伴う環境関連情報の詳細は、当社ウェブサイト内に「環境データブック」として掲載しています。
http://www.santen.co.jp/ja/csr/document/pdf/environmentdb2016_ja.pdf

〈実践報告〉

- 「ISO26000」の中核主題を参考に定義した7つの「CSR推進中核領域」ごとに、当社のCSR活動を紹介しています。
- 各中核領域の1ページ目には、中期活動テーマと活動項目を掲載し、取り組みの全体像を示しています。続いて、活動項目ごとに、CSR活動のハイライトを記録写真や図表を添えて掲載しています。
- 「実践報告FOCUS」では、一つの取り組みに焦点を当て、より詳しい報告を行うとともに、取り組みとかかわりのある社員の声を「Voice」としてお伝えしています。
- 誌面の都合上、当報告書に掲載しきれなかった「Voice」やCSR活動は、当社ウェブサイト上に公開しています。ぜひ、ご覧ください。

〈2015年度CSR活動総括〉

- CSR活動のさらなる充実をめざして、2013年度より「中期活動指標」の中に設定したKPI※の運用を開始しました。
- 2015年度のCSR活動は、設定したKPIに基づきPDCAのマネジメントサイクルを回し、活動の評価、充実化に努めています。
- 活動内容とKPIに基づく評価および次年度の活動方針をわかりやすく報告するために、4ページにわたって「KPIによる評価と次年度の活動方針」を組み込んだCSR活動総括一覧を掲載。さらに巻末には、次年度の活動項目をまとめました。

※KPI(Key Performance Indicator) = 目標の達成度合いを計る指標

対象範囲

国内では、参天製薬株式会社の全事業場および国内子会社の株式会社クレールを対象としています。海外においては、サンテン・オイ、サンテン・インク、参天製薬(中国)有限公司、韓国参天製薬株式会社、サンテン・エス・イー・エスなど一部子会社を含んでいます。

対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日(一部2016年4月以降も含む)

参考にしたガイドライン

当社CSR体系の構築には国際標準化機構「ISO26000」の考え方を取り入れています。報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、GRI「サステナビリティ・レポートینگ・ガイドライン第4版」を参考にしています。

次回発行予定

2017年8月

参天製薬グループは「天機に参与する」という 基本理念に基づいた事業活動を通じて、 優れた製品・サービスを提供することにより、 世界の患者さんのQOL向上に貢献し続けます。

「天機に参与する」——「参天」の社名の由来であり、
自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献することの意。
この基本理念のもと、創業以来いかなる時代にあっても「創造と革新」を繰り返し、
患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会に貢献する。
そこには、参天製薬のCSR（社会的責任）の本質がうたわれています。
当社は事業活動を通じた社会への貢献をCSRの根幹に据え、
全社員がCSRに対する意識を深め、
実践することを「経営と一体のCSR」と位置付けています。
本レポートでは、この1年の当社ならびに社員の取り組みをご報告いたします。

CONTENTS	
<p>TOP MESSAGE</p> <p>代表取締役社長兼CEO 黒川 明</p> 	03
<p>ステークホルダーダイアログ 取引先との協働で果たす、 製薬企業としての 社会的責任</p> 	05
<p>参天製薬グループのCSR</p> <p>実践報告（CSR推進中核領域）</p> <p>I CSRマネジメント ●活動ハイライト</p> <p>II 適正な製品・サービスの提供 ●活動ハイライト ●実践報告FOCUS 点眼剤を正しくご使用いただくための情報提供の充実 Voice 患者さん視点に立った製品情報の提供</p>	09
<p>III 公正な事業取引 ●活動ハイライト</p> <p>IV 人権尊重 ●活動ハイライト</p> <p>V 労働・安全衛生 ●活動ハイライト ●実践報告FOCUS 組織としての総合力を高め世界の患者さんに貢献し続ける Voice ダイバーシティを組織の力に変える</p> <p>VI 環境保全 ●活動ハイライト</p> <p>VII 社会貢献 ●活動ハイライト ●実践報告FOCUS ボランティア活動を通じて得られる、 目の不自由な方との交流の機会と気付き Voice 視覚障がい者支援活動</p>	17
<p>2015年度CSR活動総括（KPIによる評価と次年度の活動方針）</p> <p>2016年度活動項目</p> <p>会社概要</p>	29 33 34

世界の患者さん、そして、社会からの期待に 応えられる企業をめざして



参天製薬は、「天機に参与する」という基本理念のもと、眼科領域に特化した製薬企業として、世界の患者さんのQOL (Quality of Life : 生活の質) 向上に貢献することが社会的使命であると考えています。経営と一体となったCSR (社会的責任) 活動を進めることで、事業活動を通じた社会への寄与を果たすとともに、環境問題をはじめとした社会課題の解決にも取り組み、持続可能な社会の実現に向けた企業市民としての役割を積極的に果たしてまいります。

代表取締役社長兼CEO

黒川 明

眼科領域のスペシャリティ・カンパニーとして 事業活動を通じて社会に寄与する

参天製薬は、2015年、抗リウマチ薬事業をあゆみ製薬に承継し、事業活動を眼科領域に特化しました。従来にも増して、「眼科領域のスペシャリティ・カンパニー」として専門性を高めることによって、世界の患者さんのQOLの向上に貢献し、社会への寄与を果たしてまいります。

事業展開面では、EMEA^{※1}・アジア地域において、基盤整備を進めてまいりました。このことにより、これまで以上に多くの国や地域の医療関係者や患者さんに、当社の製品とサービスを提供し、治療に貢献することが可能となりました。

製品創製面においては、少しでも早く世界の患者さんに求められている治療剤をお届けするために、「開発期間の短縮」「成功確率の向上」「未充足ニーズへの対応」に世界中の参天製薬グループ社員が一体となってさまざまな取り組みを進めています。具体的には、外部の化合物や技術を積極的に活用し開発期間の短縮を図る「ネットワーク製品創製」^{※2}の一例として、2016年3月に、米国で緑内障・高眼圧症を対象としたフェーズ2試験^{※3}を終了しているDE-126（一般名：Sepetaprost）を小野薬品工業株式会社より導入し、グローバルでの開発の権利を取得しました。また、成人の患者さんにおいて人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とする「アイケルピス」（一般名：シクロスポリン）については、2015年7月以降順次、欧州各国で発売を開始し、アジア各国での販売承認申請も順次進めています。新たな治療の選択肢を提供し、世界の患者さんのQOLの向上に貢献することをめざし取り組んでいます。

※1: EMEA=ヨーロッパ、中東およびアフリカ(Europe, the Middle East and Africa)

※2: 「ネットワーク製品創製」=社外に存在する化合物や技術を積極的に活用し、製品創製に応用する手法

※3: フェーズ2試験=少数の患者さんを対象に当該疾患治療に適切な投与量や投与方法を検討・確認する試験

高い倫理観を持って、 経営と一体となったCSR(社会的責任)に取り組む

高い倫理観を持って、経営すなわち事業活動とCSR活動を一体として推進することが、企業が社会的責任を果たし、持続的に成長するための前提であると考えています。

急速な事業展開地域の拡大に伴い、国や地域によって異なる規制、社員の多様化へも確実に対応していかなければなり

ません。このような中、法規制を確実に遵守し事業活動を行うことはもとより、確実に患者さんに製品をお届けするための基盤整備も進めていく必要があります。環境問題や人権侵害の防止などの社会課題に対しても、これまで以上に積極的に取り組んでいかなければなりません。経営の健全性と透明性を確保し続けるために、コーポレート・ガバナンス機能のさらなる充実と強化、そして、人材の育成に取り組んでまいります。

眼科領域のスペシャリティ・カンパニーとして、製品とサービスの提供を通じた社会への寄与だけではなく、医療分野や福祉分野に対する貢献も私たちの社会的責任です。医療分野では、医学・薬学研究に加え、角膜移植の普及、発展途上国における眼科医育成や失明予防活動に取り組む財団やNGOなどに対する助成にこれまで以上に取り組んでまいります。福祉分野では、盲導犬育成事業や視覚障がい者支援団体の活動などに対する支援を引き続き行ってまいります。

基本理念をよりどころとし

参天製薬グループの総力を結集し、社会に寄与する

基本理念に基づき期待する人材像を示した「サンテン・リーダーシップ・コンピテンシー (SLC)」と新たな人事評価制度を構築し、2015年4月より、参天製薬グループ内への展開を開始しました。SLCは、社員一人ひとりの能力開発とキャリアプラン策定に向けた基軸となるものであると同時に、基本理念に基づいた行動を全社員が等しく理解し、実践する、その浸透のための重要なツールです。

基本理念に基づく高い倫理感を持った人材を育成し、組織力の強化に取り組んでまいります。このことが、さまざまな経歴や文化的背景を持つ参天製薬グループ社員の総力を結集し経営と一体のCSRを実践すること、すなわち、世界中の患者さんに貢献することと、社会的責任を着実に果たし続けていくためには不可欠であると考えています。

これからも、基本理念のもと、患者さんと患者さん愛する人々を中心として、社会への寄与を果たしてまいります。

今後一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年8月



取引先との協働で果たす、製薬企業としての社会的責任

「患者さん」への思いを共有し 互いの信頼のもとで深まる連携と協働

参天製薬の製品は、さまざまな取引先の協力なくして患者さんのもとにお届けすることができません。中でも、原薬供給を担う取引先の存在は重要です。その重要な一社であるヤマサ醤油株式会社は、核酸系の高度な技術が求められる「ジクアス点眼液」の原薬製造に道をひらき、承認申請の段階から10数年以上にわたり、原薬の製造・供給元として参天製薬と歩みをとめてきました。今後も力を合わせ、ドライアイに悩む世界中の患者さんに「ジクアス点眼液」をお届けするために努力を重ねていきます。当社にとっての取引先との協働の重要性を再認識するため、長年のパートナーであるヤマサ醤油のご担当者とお社の生産調達担当が意見を交わしました。

ドライアイ治療薬「ジクアス点眼液」

涙の成分であるムチンや水分の分泌を促進し、涙の状態を改善することで角膜上皮の障害を改善します。ドライアイの潜在患者さんは国内だけで2,200万人ともいわれます。世界で初めてこのドライアイを効能・効果とした眼科薬として2010年12月に日本での発売を果たしました。現在、海外展開に向けての活動を推進中です。



医薬品の安定供給を支える パートナーシップ

北村 私は現在、参天製薬プロダクトサプライ本部のサプライチェーングループを統括しています。患者さんのもとに安定して医薬品をお届けすることは、我々にとっての使命と考えています。そのためにも医薬品の原料である原薬の調達

は大変重要です。

和田 私は北村のもとで原薬を含む医薬品原材料の調達を担当しており、取引先の企業は私たちの重要なパートナーと考えています。「ジクアス」の海外展開が進みつつある中、適正な品質の原薬を提供して下さるヤマサ醤油さんとの協働は、患者さんに確実にお薬を届け続けるために一層重要になってきていると考え

ています。

甘利 ヤマサ醤油は50年以上前に核酸系の調味料の製造を開始し、以来、そこから派生した核酸系の医薬品原薬や化成品の研究開発、製造、販売を手がけてきました。その販売部門として医薬品課と化成品課があり、私はその両課を管掌しつつ医薬品課の課長も兼務しています。「ジクアス」の原薬にも10数年前か

らかかわらせていただいています。

荒川 私は参天製薬さんとの、原薬の生産計画の調整に加え、品質管理や薬事対応など、さまざまな業務の窓口を担当させていただいています。

北村 ヤマサ醤油さんはリボ核酸の分解法でつくる核酸について世界トップクラスの技術と実績をお持ちで、それが、「ジクアス」の原薬メーカーとしてお付き合いさせていただき最大のポイントになりました。品質管理や安定供給の面にも優れ、大切な原薬の供給をお願いする条件が揃っていたということも、長年のお付き合いの背景となっています。

甘利 「ジクアス」が製品化される以前の早い時期から密なコミュニケーションをとらせていただき、スピードが求められる中、しっかり連携を深めてこられたことが大きかったと考えています。

患者さんへの思いを共有する中 信頼感が育まれ、協働が深まる

和田 事業展開を進める中で、私たち調達部門だけでなく、開発部門や品質保証部門などさまざまな部門がヤマサ醤油

さんに問い合わせや依頼をします。これらに対し、常にしっかりと社内調整をして回答や対応をさせていただきます。そういう真摯さが信頼感につながり、協力関係が深まるのを感じます。

荒川 参天製薬さんは、背景や必要性をきちんと説明して下さるので、対応すべきことがいつきに集中するような時も、目的意識を持って仕事に打ち込むことができます。何かを問いつけた時にすぐにレスポンスをいただけるのも、とても助かります。

和田 ヤマサ醤油さんからも、いつも刺激をいただいています。需給管理、品質管理、薬事対応などいずれについても、これから必要となることは何かを考え、社内ですぐ対応を検討、調整して進めておられ、私たちとしても大変勉強になっています。

甘利 これは普段のやりとりの中で感じるのですが、参天製薬さんは企業の社会的責任が、事業や業務とどのようにかかわっているか、社員の方一人ひとりに徹底されているという印象があります。

北村 日々の業務の中では、ともすると会社としての使命を見失いがちになります。このため、「私たちの仕事は、患者さんの生活の質を高める薬をつくり、それを確実にお届けすることである」と、常日頃いろんな場面で確認するようにしています。

荒川 機会あるごとに伝えてくださる世界中のドライアイの患者さんのことや、患者さんのためにお薬を届けたいという思いは、私の中でもベースになっています。目の前の仕事からは患者さんの姿が見えてこなくても、背景や目的がわかれば、最終的に患者さんにお薬を届けることにつながっていくのがわかるので、責任感を持って取り組むことができます。

北村 私たちが取り組んでいるのは患者さんに貢献するための非常にやりがいのある仕事なのだという意識を、社内だけでなくパートナー企業の皆さんとも、常に共有するように努めているつもりです。



ヤマサ醤油株式会社
医薬・化成品事業部 医薬品課、化成品課 課長
甘利 恒二様

この点、ヤマサ醤油さんはよくご理解くださっていると感じます。私たちからヤマサ醤油さんに多くのことをお願いしていますが、それに対して素早く、しかも非常に真摯に、丁寧に対応して下さいます。ヤマサ醤油さんからいただく提案も、私たちと同じ目線からのものとなっています。だからこそ、会社としても個人としても心から信頼し、安心しておつきあいができています。



参天製薬株式会社 プロダクトサプライ本部
サプライチェーングループ グループマネージャー
北村 義夫

ヤマサ醤油株式会社

370年以上にわたり銚子の地で醤油を作り続け、「社会に存在価値のある企業」を経営理念に、家庭用・業務用の各種調味料を広く国内外へ送り出しています。

医薬・化成品事業部

リボ核酸を分解する技術を確立し、その後製薬会社との核酸系医薬品開発に成功。1997年に医薬・化成品事業部を設立しました。核酸分解物ヌクレオチドの供給は世界最大級で、独自の技術が世界的に高く評価されています。



ヤマサ醤油 医薬・化成品事業部の製造設備

**使命感を持って
安定供給のために取り組む**

和田 ヤマサ醤油さんは、初期段階から、需給管理や製造調整などに非常に熱心に取り組んできてくださいました。そして、お互いの信頼のうえに立った密なコミュニケーションを築くことができました。常に双方向で確認し合い、協力し合うことで、安定供給体制をしっかりと維持・強化していくことができています。

北村 私たちは原薬がないとお薬がつかれません。ですから、パートナーとなる原薬メーカーさんには、ヤマサ醤油さんのように、患者さんに対して継続的に医薬品を供給していくことが非常に重要だ



参天製薬株式会社 プロダクトサプライ本部
サプライチェーングループ 生産調達チーム チームマネージャー
和田 大典

という価値観を共有していただくことが不可欠です。でなければ、いかに優れた生産体制を持っておられても、何かあった時、本当に心を一つにして患者さんへの使命を果たしていくことができません。結果、私たちは、製薬企業としての責任を果たすことができなくなってしまいます。

甘利 医薬品は、お届けする先に患者さんがいらっしゃいます。そのことの重み、安定供給の大切さは、当初からしっかりと共有させていただいているつもりです。製品の販売を開始する前の段階で新たな製造棟をつくる判断に至ったのも、将来の安定供給に備えるためでした。膝を突き合わせ、徹底的にお話をさせていただいて、最後は当然ながらトップの判断で決まりました。

荒川 今も、認識の食い違いなどで供給に支障が生じるようなことが決まてないように、日々メールや電話で密な情報交換を行い、それをさらに補完するために定期的に直接お会いしてお話させていただくようにしています。

**不断の努力によって維持される
世界標準の品質保証体制**

北村 医薬品業界は規制が厳しい世界ですので、安定供給体制に加え、世界標準の品質保証体制を確立しておられることも、私たちがパートナー企業に希望する、重要な要件です。ヤマサ醤油さんはこの点についても、早くからICHガイドライン^{※1}やPIC/Sガイドライン^{※2}に対応されており、品質面でも安心しておつきあいできる環境が整っていました。



ヤマサ醤油株式会社
医薬・化成品事業部 医薬品課
荒川 恵理様

甘利 品質保証体制については、直接市場に接している医薬・化成品事業部からの要請に応じて品質保証部が世界的なガイドラインへの対応を進めてきました。

和田 「ジクアス」は現在、日本、韓国、タイ、ベトナムで販売承認を取得し、中国では承認申請中です。こうした動きの中で、国ごとに異なる手続きや要求事項への対応をしていかなければなりません。世界で標準となっているICHガイドラインやPIC/Sガイドラインに沿って、当局からの査察が製造所に入ります。薬事規制も年々厳しくなっているので、設備、運用体制、マニュアルの整備などを絶えず検証して品質保証体制が整えられている必要があります。ですから、ガイドラインに対応できたらゴールではなく、そ

※1: ICHガイドライン＝新薬の品質・有効性・安全性に関する承認審査基準について、日米EU医薬品規制調和国際会議が作成したガイドライン

※2: PIC/Sガイドライン＝医薬品分野の「製造・品質管理基準 (GMP)」と「基準への適合性に関する製造事業者の調査方法」について、医薬品査察協定及び医薬品査察共同スキームが作成したガイドライン

「ジクアス点眼液」の研究開発から製造に至るまでのプロセス



の後も不断の努力が必要です。ヤマサ醤油さんがこれまで問題なく対応されてこられているのは、陰にそうした努力があるからだと考えています。

世界中の患者さんのために 力を合わせ、挑戦し続けていく

北村 今後は「ジクアス」を、アジア地域を中心に、ドライアイで困っておられる患者さんへお届けすることが目標です。そのためには、ヤマサ醤油さんのお力をお借りしなければならない。一つは、国ごとで新薬を販売するための承認申請に必要な情報準備などの対応。次に日本国内だけでなく多くの国や地域にお届けするための生産・供給体制の整備。そしてもう一つは、特にアジア地域の患者さんにお薬を使っていただけるようにするためには、手の届く価格である必要があります。そのための原価の低減です。参天製薬とヤマサ醤油さんとで、引き続き協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

甘利 まず薬事対応についてですが、当社も海外展開の経験はあるものの、薬事規制は国ごとに特殊性があり、当社だけでは十分な対応ができません。世界中の患者さんにこの薬を届けたい、それも、できるだけ早く届けたいという思いは、

参天製薬さんと全く同じです。ですから、その実現に向け、私たちがより一層参天製薬さんの懐に入り込んで、今まで以上に参天製薬さんのチームの一員という意識で一緒にやらせていただきたいと思います。

荒川 今後、「ジクアス」をより多くの国の患者さんにお届けしていくためには、国ごとに異なる承認申請の準備や、薬事規制への対応などを同時並行で進めていく必要があります。スピード感を持って、コミュニケーションを一層密にして取り組んでいきたいと思っています。

甘利 残りの2つの課題、生産・供給体制の整備と原価の低減についてですが、私たちはこれまで、需要が伸びる中でいかに安定供給を確かなものとしていくかという課題に目を向けていました。そして、さらに世界中の患者さんにお薬をお届けするためには製造原価の低減も欠かせないことを再認識しました。患者さんのお役に立つために、参天製薬さんにも協力いただき、当社の技術の蓄積を活かして挑戦を続けてまいります。

共通した目標に向かってともに歩み、 連携と協働をさらに進化させたい

甘利 長年参天製薬さんを担当させて

いただき、私の仕事の中心にはいつも参天製薬さんがいらっしゃいます。参天製薬さんの社員ではありませんが、日頃、まるでプロジェクトの一員のように仕事をさせていただいているので、対応すべき課題の背景や理由がわかり、その先には患者さんがいらっしゃるということも自然に意識できています。このような形で仕事をさせていただくことは、自分たちが成長するよい機会となっています。これからもさらに協力関係を強くして、ともに歩んでいきたいと思っています。

和田 患者さんに安定的にお薬をお届けすることは、私たち参天製薬だけの努力ではなし得ません。ヤマサ醤油さんをはじめとした取引先の皆さんとのパートナーシップがあってこそできることです。そのことを忘れることなく、今まで以上に連携を密にして、ともに取り組ませていただきたいと思います。

荒川 両社のコミュニケーションの窓口として、もっともっと勉強して、スピード感も高め、少しでも患者さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

北村 世界中の患者さんにお薬を届ける仕事には大きなやりがいがあります。今回の対話を通じて、改めて、両社の協働を進化させたいという思いを強くしました。今後ともよろしく願いいたします。



参天製薬グループのCSR

参天製薬グループのCSRは、「基本理念」に基づいた「経営と一体のCSR」です。当社の役員・社員全員に求められる行動の在り方をまとめた「参天企業倫理綱領」と国際標準化機構（ISO）により制定された社会的責任のガイドライン「ISO26000」の中核主題を参考に、7つの「CSR推進中核領域」と「CSR方針」を定義しています。そして、推進中核領域ごとに目標を立てCSR活動の充実を図っています。

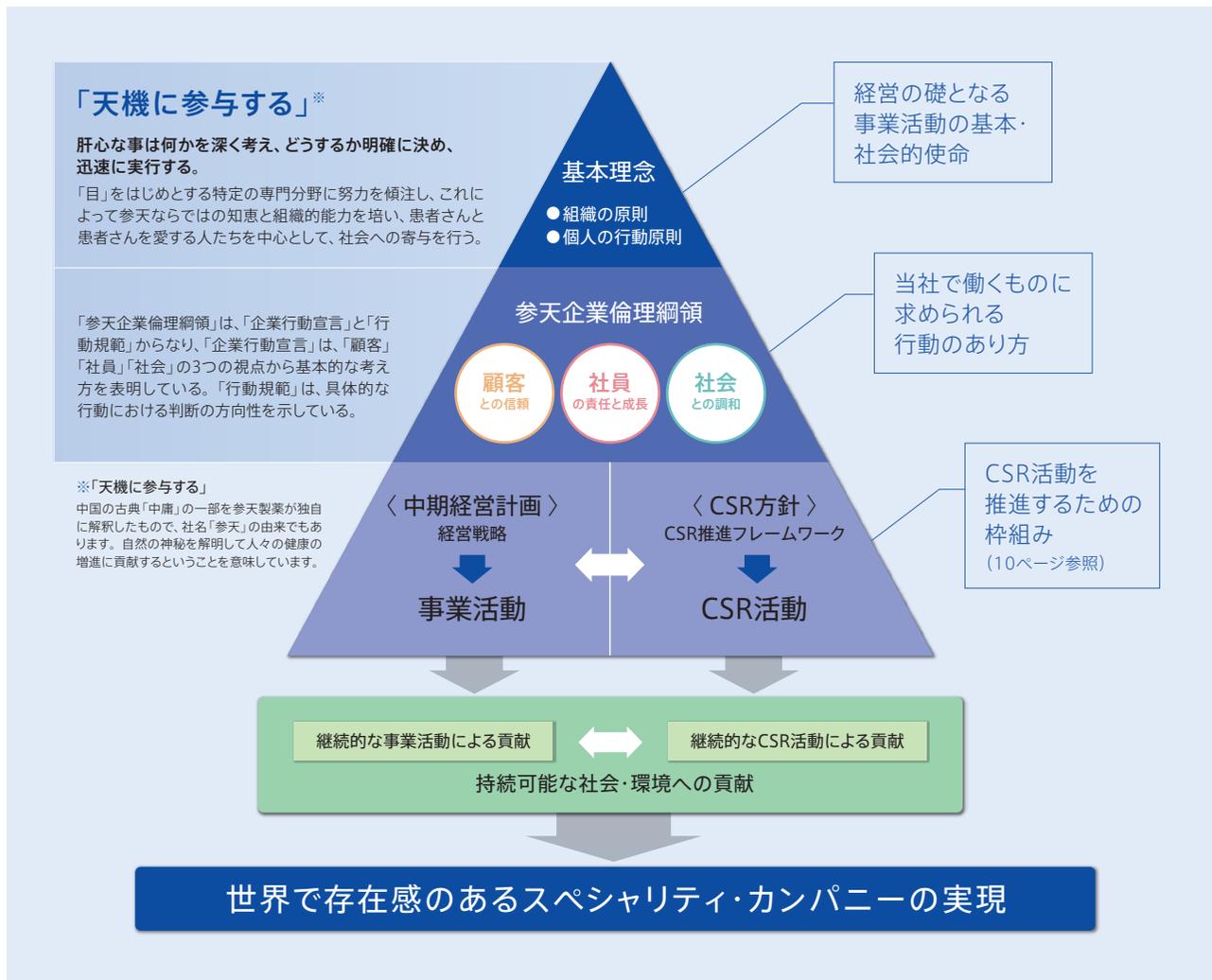
経営と一体のCSR

参天製薬グループは「基本理念」に基づき、眼科領域のスペシャリティ・カンパニーとして、「創造と革新」を常に追求し、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会に貢献することを使命としています。事業活動を通じた社会貢献とともに、法令遵守はもとより環境保全や労働慣行などの社会的課題の解決をはじめ企業市民としての責任を積極的に果たします。

この考えのもと、「顧客との信頼」「社員の責任と成長」「社会との調和」の3つの視点から、当社で働くものの行動の在り方―行動規範を「参天企業倫理綱領」としてまとめ、役員・社員一人ひとりが事業活動において、法令遵守はもとより、高い倫理観を

持って誠実かつ責任ある行動をとることを求めています。併せて、社会的責任のガイドライン「ISO26000」を参考に定義した7つのCSR推進中核領域ごとに、CSR方針を定め、中期活動テーマと活動項目を設定しました。PDCAサイクル[※]を回すことによって、経営すなわち事業活動と一体となったCSR（社会的責任）を果たし続けることで、持続可能な社会や環境への貢献を果たし、2020年までの長期的な経営ビジョン「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニーの実現」につながると考えています。

[※]PDCAサイクル＝事業活動を円滑に進める手法の一つ。P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す



CSR方針

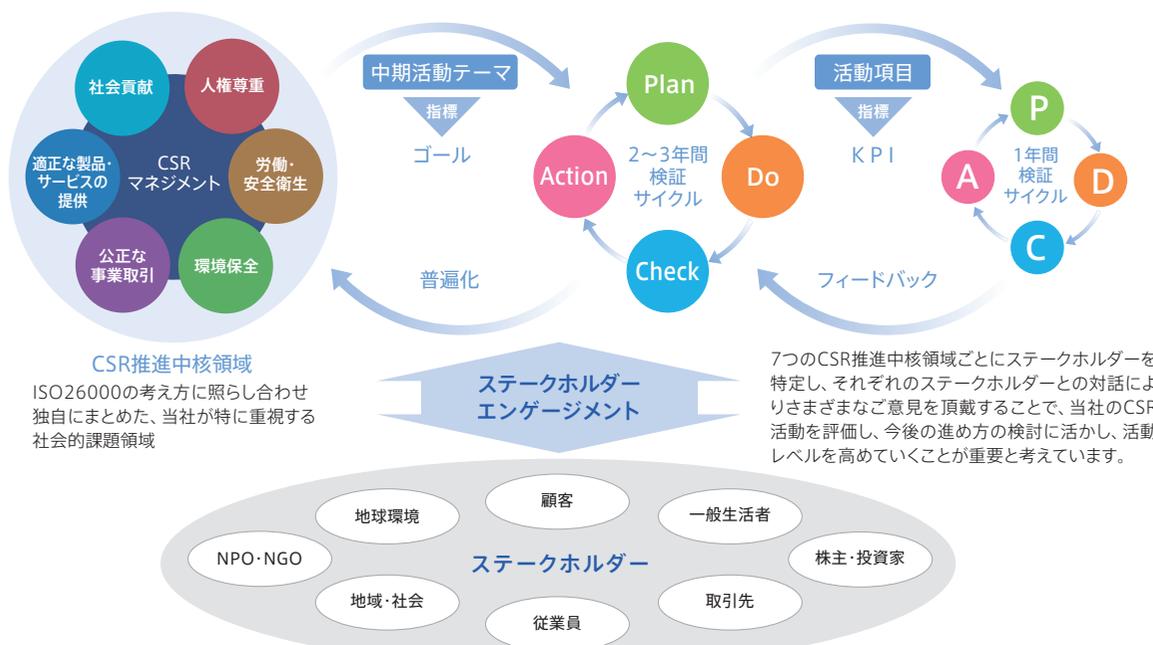
参天製薬グループは「天機に参与する」という基本理念に基づいた事業活動を通じて、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL向上に貢献し続けます。

CSRガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、ISO26000の社会的責任の原則を尊重しCSR活動を推進します。*1 ● 参天製薬グループは、CSR推進フレームワークに沿ってCSRマネジメントによるCSR活動を推進します。*2 <p><small>*1 説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重 *2 ISO26000を参考に当社独自に定義したものと</small></p>
適正な製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、適用される法規、規格、基準を満足し、最新の科学技術を応用して、消費者に信頼される高い品質を確保した製品とサービスを提供します。
公正な事業取引	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、事業活動を行う国や地域における法規・事業慣行等を遵守します。 ● 参天製薬グループは、取引先を私たちのパートナーと考え、相互の発展をめざすとともに、法規・事業慣行等の遵守を求めます。
人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、事業を行うすべての国と地域において、人権を尊重した活動を推進します。 ● 参天製薬グループは、従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、お互いに敬意を払い、連帯感のある職場づくりを推進します。
労働・安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、「人命」を第一に考え、従業員の安全確保および健康増進を図り、働きやすい職場環境の維持・向上を推進します。
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、生物多様性が生み出す自然を地球環境の重要な基盤であると認識し、地球環境を保護・保存し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ための活動を推進します。
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、事業分野における医療の発展、福祉の充実に向けた活動、および良き企業市民としての活動を推進します。

CSR活動の実践

CSR活動の実践においては、7つの「CSR推進中核領域」ごとに「中期活動テーマ」と、より具体的な「活動項目」を設定し、短期と中期でPDCAサイクルを回すことにより、CSR活動の確実な推進に努めています。活動の進展状況や環境変化を踏まえて、「中期活動テーマ」ごとにゴール(中期的に実現したい姿)を、「活動項目」ごとにはKPI※を定め、設定した指標に基づきCSR活動の充実を図ります。

※KPI(Key Performance Indicator)=目標の達成度合いを計る指標



CSRマネジメント

参天製薬グループは、ISO26000の社会的責任の原則を尊重しCSR活動を推進します。^{※1}
 参天製薬グループは、CSR推進フレームワークに沿ってCSRマネジメントによるCSR活動を推進します。^{※2}

^{※1} 説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重
^{※2} ISO26000を参考に当社独自に定義したもの

中期活動テーマ

Plan 活動項目

ステークホルダー
エンゲージメントの
確立

ステークホルダーダイアログを充実する

情報開示を充実する

社員へのCSR推進概念の浸透を図る

リスクマネジメント
システムの
確実な運用

コンプライアンス、安全衛生、
防火防災、環境保全に関する
PDCAサイクルを確実に運用する

サプライチェーンにおける
デューディリジェンスを推進する

[※]本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。

[※]活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度の活動方針(Action)は、「2015年度CSR活動総括」(P29～30)に掲載しています。

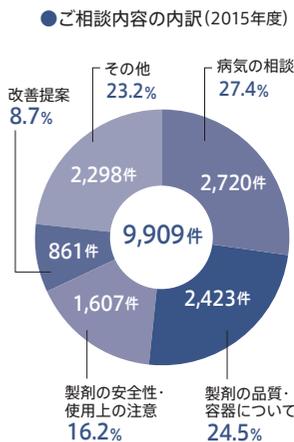
ステークホルダーエンゲージメントの確立

ステークホルダーダイアログを充実する

お客さまからのご相談への対応

当社は、お客さまからのご相談を一元的に受け付けることができるように、「お客様相談室」を設置し、電話やお手紙、ウェブサイトなどの手段でご相談を受け付けています。2015年度のご相談件数は9,909件でした。

ご相談などに対しては、誠実に対応することを第一としています。安全性や品質に関するご質問などに対しては、担当部門と連携し、迅速かつ的確な回答に努めています。また、お客さまに適正に使用していただくための情報提供につなげています。



株主・投資家への情報開示とコミュニケーションの充実

当社では、株主・投資家の皆さまに対し、当社の経営方針や事業戦略などを、わかりやすく公平かつ正確に提供することを基本的な方針とし、積極的な情報開示に取り組んでいます。開示すべき情報は、適時、当社ウェブサイトなどを通じて発信し、業績・財務にかかわる情報は、2015年度より国際会計基準(IFRS)を適用しています。アナリストならびに機関投資家を対象に、日本国内では四半期ごとに決算説明会などを実施するほか、証券会社主催の国内カンファレンスや個人投資家向け説明会にも積極的に参加しています。加えて、海外での投資家向けカンファレンスへの参加や株主・投資家への訪問なども充実させています。

2015年9月には、アナリストや機関投資家、メディア関係者

を対象に、研究開発のビジョンや戦略などに特化した説明会を開催しました。国内外から研究開発統括部門の責任者が出席し、具体的な活動や今後の方向性について説明するとともに、日本国内だけでなく海外から参加いただいた方々と意見交換の機会も持つことができました。



研究開発のビジョンや戦略などに特化した説明会の様子

情報開示を充実する

多様な媒体による情報開示

ステークホルダーの皆さまに当社のCSR活動をわかりやすくお伝えするため、当社ウェブサイト「CSR(社会的責任)」のページを設けています。当ページでは、当社のCSRの考え方を掲載するとともに、よりタイムリーに当社の活動内容をお伝えするため、概ね四半期ごとに更新しています。

そのうえで年に1度活動の総括を行い、1年間の活動のハイライトなどとともに「CSRレポート」としてまとめ、発行しています。冊子版は、工場を見学いただいた際などに配布するとともに、全国約400の国公立図書館に寄贈しています。電子版は当社ウェブサイトに掲載するとともに、「CSR図書館.net」と「CSR JAPAN」に登録しているほか、経済産業省のウェブサイトにある「環境報告書プラザ」にも集録・掲載いただいています。

また、視覚に障がいのある方にも、より容易に確認いただくことができるよう、デージー[※]版の作成・配布を行い、視覚障害者情報ネットワーク「サビエ」にも登録いただいています。

[※]デージー＝視覚障がい者、肢体障がい者、学習障がい者、健常者でも何らかの「読み」に不自由のある人のために開発された音声付録音図書規格

社員へのCSR推進概念の浸透を図る

社員へのCSR研修の実施およびCSR情報の発信

社員一人ひとりが当社のCSRに対する考え方を理解し、高い倫理観を持って行動することが、CSR活動の充実化のためには重要な要素と考えています。このため、入社時や管理職登用時にCSR研修を実施しています。

また、全社員に「CSRレポート」を配付するとともにアンケートを実施し、理解浸透度合いの確認を行っています。さらに、社内ポータルサイトを通じた情報発信やeラーニングにより、新しい話題をタイムリーに共有し、CSRの考え方や取り組みに対する理解・浸透や、活動への参加促進を図っています。



CSR研修の様子



「CSR情報ポータル」のトップ画面

リスクマネジメントシステムの確実な運用

PDCAサイクルを確実に運用する

CSR委員会によるPDCAサイクルの運用

当社ではCSR委員会を構成するCSR関連5委員会を運営し、各委員会の委員が所属する事業部・本部や事業場ごとの活動へと展開しています。CSR委員会では、「CSR推進中核領域」の課題に応じた中期方針や全社目標を設定します。そのうえで、各事業部・本部や事業場における活動を定期的にモニタリングすることで、計画と実績の差異を確認し、リスク評価、計画修正、追加施策の立案を経て、翌期のプランニングを行い



2015年10月に開催されたCSR委員会の様子

ます。このPDCAサイクル[※]を確実に回すことで、CSR活動の充実を図っています。

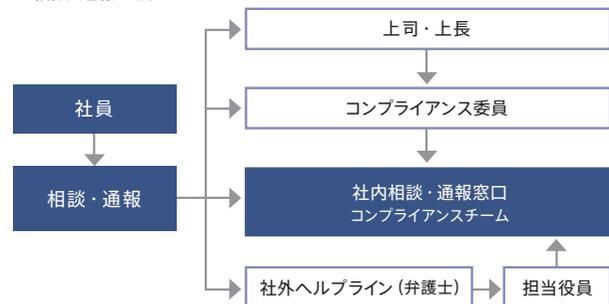
[※]PDCAサイクル=事業活動を円滑に進める手法の一つ。P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す

コンプライアンスの徹底

当社は、すべての役員・社員の企業活動における行動指針として、「企業行動宣言」と「企業行動規範」から構成される「参天企業倫理綱領」を定め、担当役員、担当部署、CSR委員会を設置し、コンプライアンスの徹底に努めています。

また、社員がコンプライアンス上疑義のある行為や質問について、相談・通報しやすいように、社内に「コンプライアンス相談・通報窓口」「ハラスメント相談窓口」を設け、相談・通報を受け体制を整備しています。さらに、会社とは独立した立場の弁護士などによる「社外ヘルプライン」も設置しています。これらの相談・通報窓口について、社員が理解し、有効に活用されるよう、窓口の連絡先を掲載した「コンプライアンスカード」を派遣社員を含む全社員に配付するとともに、定期的にニュースレターを通じた案内や、職場での確認による浸透に努めています。

● 相談・通報の流れ



サプライチェーンにおけるデューディリジェンスを推進する

医薬品の生産・供給全体を通じて社会的責任を果たす

当社は、社会的課題である環境汚染の防止、適正な労働環境の確保、人権尊重などに関し、当社が遵守することはもとより、影響力を行使しうる範囲においても責任を果たしていく必要があると考えています。具体的には、現在取引を行っている、あるいは、新たに取り組む開始する原薬の調達先や製造委託先に対し、法令遵守体制、環境保全、労働・安全衛生などの取り組み状況の確認(デューディリジェンス[※])を行うことで、当社だけでなく取引先も含めた医薬品の生産・供給全体を通じて、社会的責任を果たすことをめざしています。

2015年度は、原薬調達先の国内15社、海外2社および海外製造委託先2社に対して、取り組み状況に問題がないことを確認しました。今後も責任ある医薬品の供給を行うために、本取り組みを展開していきます。

[※]デューディリジェンス=CSR(企業の社会的責任)におけるデューディリジェンスとは、組織の決定と活動に関する実際のおよび潜在的な社会に与えるマイナスの影響を特定するプロセス

適正な製品・サービスの提供

参天製薬グループは、適用される法規、規格、基準を満足し、最新の科学技術を応用して、消費者に信頼される高い品質を確保した製品とサービスを提供します。

中期活動テーマ

Plan 活動項目

優れた製品の開発と提供

- 優れた製品を研究・開発する
- 製品を安定的に供給する
- 製品の信頼性を確保する

製品・疾患に関する情報・サービスの提供

- 患者さんや一般生活者に有用な情報を提供する
- 医療関係者に有用な情報を提供する

医療関係者・患者団体とのコンプライアンス確保

- コンプライアンス確保のための仕組みを整備・運用する

※本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。
 ※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度の活動方針(Action)は、「2015年度CSR活動総括」(P29～30)に掲載しています。

優れた製品の開発と提供

優れた製品を研究・開発する

医療ニーズに基づいた新製品の開発と提供

国内では、緑内障領域において、2015年6月に防腐剤を含まない1回使い切りタイプの点眼剤「コソトミニ配合点眼液」を発売しました。網膜疾患領域では、眼科用VEGF阻害剤「アイリニア硝子体内注射液」について、2015年6月に網膜静脈閉塞症^{※1}に伴う黄斑浮腫で適応追加承認^{※2}されました。

海外では、2016年3月に緑内障・高眼圧症治療剤の「タブロス」を中国にて発売し、2016年4月に「タブロス」と薬効成分が同じで防腐剤を含まない1回使い切りタイプの点眼剤を、シンガポールにて発売しました。

また、人工涙液などで効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とした欧州初の医療用治療剤「アイケルビス点眼液」について、2015年7月以降順次、ドイツやイギリスなど欧州各国で販売を開始しました。



「コソトミニ配合点眼液」



「アイケルビス点眼液」

※1：網膜静脈閉塞症＝網膜において血流が阻害される疾患
 ※2：「アイリニア硝子体内注射液」の適応追加承認＝製造販売元のバイエル薬品株式会社が「アイリニア硝子体内注射液」の適応追加承認を取得しました

研究活動における動物福祉への配慮

医薬品の研究開発を進めるうえで不可欠な動物実験において、当社では実験動物の生命尊重、動物愛護に配慮し、適正な飼育環境の確保に努めています。また、「使用動物数の削減」、「動物を使用しない代替法の採用」、「苦痛の軽減」、「実験者と委託者の責任」の4Rも推進しています。そのために、動物愛

護や実験動物に関する法規制などに準拠した社内規程を制定し、すべての動物実験計画を「動物実験委員会」で審査し、研究所の責任者が承認した最低限の実験のみを実施しています。

これらの当社の取り組みは、公益財団法人ヒューマンサイエンス振興財団動物実験実施施設認証センターによる第三者の評価・検証を受け、適合施設として認証を取得しています。



第三者検証による認定証

製品を安定的に供給する

グローバルな製品供給体制の構築

当社は、年間約3億本の高品質な点眼剤を製造・安定供給し、「世界の患者さんのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に貢献すること」を使命としています。このことを実現するために、能登(日本)、滋賀(日本)、蘇州(中国)、タンペレ(フィンランド)の世界4工場では、それぞれの特徴に応じた機能強化により、顧客の期待以上の製品を、求められる地域に、より早く、供給できるグローバルな体制の確立をめざしています。



能登工場



滋賀プロダクトサプライセンター



蘇州工場



タンペレ工場

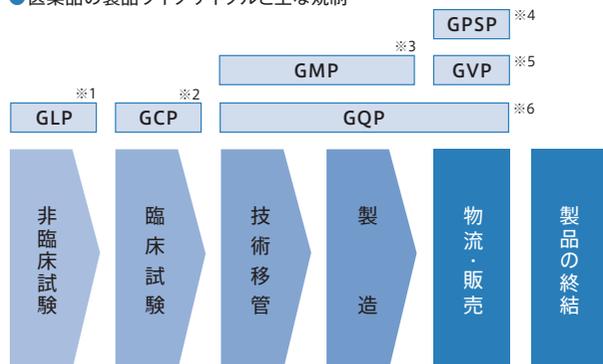
製品の信頼性を確保する

製品ライフサイクルにおけるグローバルな信頼性の確保

当社では「品質基本方針」に基づき、信頼性保証に関するグローバルなマネジメントシステムにより、医薬品の製品ライフサイクル全般において、すべての顧客に安心いただける有効性と安全性に優れた高品質な製品とサービスを効率よく、安定的に提供することに努めています。

マネジメントシステムの適切性と実効性を確実にするために、「グローバル品質マネジメント委員会」「グローバル安全性監視委員会」にて、信頼性保証活動の情報を取りまとめ、経営陣によるマネジメントレビューを継続して実施しています。このレビューでは、信頼性保証に関する仕組みの評価、品質基本方針の見直し、品質目標の設定などを行い、グローバル視点で信頼性の確保に取り組んでいます。

● 医薬品の製品ライフサイクルと主な規制



- ※1 GLP (Good Laboratory Practice) 医薬品の安全性に関する非臨床試験の実施の基準
- ※2 GCP (Good Clinical Practice) 医薬品の臨床試験の実施の基準
- ※3 GMP (Good Manufacturing Practice) 医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理に関する基準
- ※4 GPSP (Good Post-marketing Study Practice) 医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準
- ※5 GVP (Good Vigilance Practice) 医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の製造販売後安全管理の基準
- ※6 GQP (Good Quality Practice) 医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の品質管理の基準

製品・疾患に関する情報・サービスの提供

患者さんや一般生活者に有用な情報を提供する

ウェブサイトを通じた情報提供の充実

当社のウェブサイトでは、「目の情報ポータル」として、製品に関する情報だけでなく、目の症状や診断、治療、予防方法に関する情報を提供しています。保護者の方が、子どもの目についての理解を深め、病気の早期発見にもつながるよう、日頃気をつけたい目に関する注意点や、子どもによくみられる目の症状や病気について紹介している「こ



「子どものための目のページ」

ものための目のページ」、ドライアイに関する詳細な情報やドライアイの可能性を確認していただけるセルフチェックなどを掲載している「ドライアイ」のページなどをご覧ください。

● 「子どものための目のページ」

<http://www.santen.co.jp/ja/healthcare/eye/eyecare/child/>

医療関係者に有用な情報を提供する

医療関係者や患者さんが求める情報を提供

当社のMR※は、目のスペシャリティ・カンパニーとして日本全国で約14,000人おられる眼科医のほとんどを個別に訪問、豊富な製品ラインナップと幅広い医薬情報を提供しています。また、日々の医薬情報提供活動の中で把握したさまざまなニーズを、生産、品質保証などの関連部門で共有し、疾患啓発や医薬品の適正使用のための情報提供などに活かしています。



MRの情報提供活動

※MR=Medical Representativeの略。医薬情報担当者

医療関係者・患者団体とのコンプライアンス確保

コンプライアンス確保のための仕組みを整備・運用する

医療関係者や患者団体との適切な関係維持と透明性の確保

当社では、医薬品などを適切にお使いいただくことや医療ニーズを的確に把握することを目的とし、医療関係者や患者団体に対する情報資料の提供や説明会の開催、意見交換の実施などの活動に取り組んでいます。また、医学・薬学の発展のために大学病院などに対する研究助成を積極的に行うとともに、「患者さんと患者さんを愛する人々を中心として社会へ寄与する」という基本理念に基づき患者団体への支援活動も行っています。

このような当社の活動が高い倫理性を担保したうえで遂行されるよう、法規制、業界自主規制に従うことはもとより、社内ガイドラインを制定し、継続的な教育と点検を実施しています。

寄付においては、CSRを所管する執行役員を委員長とした「寄付委員会」を設置し、寄付の妥当性を審議しています。さらに、執行の都度、営業部門から独立した組織が寄付内容を確認・記録しています。加えて、より透明性を高めるために、当社ウェブサイト上で、医療関係者や患者団体に対する寄付行為などについて開示しています。

● 「透明性に関する指針」ならびに開示情報掲載ページ

<http://www.santen.co.jp/ja/about/transparency/>

点眼剤を正しくご使用いただくための 情報提供の充実

患者さんからの声を活かす「品質保証CS・技術室」の取り組み

お客さまからのお問い合わせに お応えするために

参天製薬では、お客さまに安心して医薬品をご使用いただけるように、そして、迅速かつ適正に対応するために、製品の種類やお問い合わせ内容などによって対応する窓口を分けるなど体制を整えています。併せて、お客さまから寄せられるお問い合わせやご要望などの声を関係部署で共有し、製品やサービスの改善に活かすことに努めています。

ドラッグストアなどで販売している一般用の製品をお使いのお客さまからのお問い合わせは主にお客様相談室を通して、患者さんや、医師や薬剤師など医療関係者からのお問い合わせは主にMR[※]を介して届き、お問い合わせ内容に応じた適切な部署が回答を行います。そのうち、製品品質に関するお問い合わせは、「品質保証CS・技術室」へ集約されます。そして、関係する部門で検討され、品質の維持・改善につなげる仕組みを整えています。

※MR=Medical Representativeの略。医薬情報担当者

「品質保証CS・技術室」の活動内容

「品質保証CS・技術室」では、患者さんや、医師や薬剤師などの医療関係者から寄せられた製品品質にかかわるお問い合わせ内容の中で、科学的分析・調査が必要な事項については、成分分析などの調査を行っています。そして、何らかの問題が確認された場合は、推定される原因の分析と解決に向けての提案などを行います。これらの結果を、MRを通じて医師や薬剤師の方々にお伝えし、患者さんへの説明に役立てていただきます。

製品品質の向上にかかわる役割としては、関係する部署で構



「品質保証CS・技術室」の職場の様子



「品質保証CS・技術室」のメンバー

成される「製品品質向上委員会」の事務局を担うとともに、適宜、関係部署とも情報を共有し、製品やサービスの改善に、より積極的に関与するべく努めています。

また近年は、患者さんに点眼剤の正しい使い方や保管方法をご理解いただく取り組みに力を入れています。患者さんへの説明用資料やポスターなどを制作するとともに、MRに対する研修を行うことにより説明用資料などの意図の理解を深め、医療現場で活用いただけるよう努めています。

今後も、「患者さんの視点に立って、何をしなければならぬか」を考え、関係部署と連携し、チーム一丸となって取り組んでいきます。



点眼剤の正しい使い方・保管方法などを患者さんに知っていただくためのチラシやポスター



患者さん おひとりおひとりに向き合い 真の解決につなげる

信頼性保証本部
品質保証CS・技術室

田島 司

活動現場の声 Voice

患者さんの
視点に立った
製品情報の提供

患者さんおひとりおひとりの お問い合わせに向き合う

私は、MRを介して届いた患者さんや医師、薬剤師の方々からのお問い合わせ内容の原因を調査・分析、報告する業務を担当しています。



患者さんのもとから届いた製品の状態を
顕微鏡で観察

患者さんから寄せられるお問い合わせはさまざまですが、お問い合わせひとつひとつを的確に理解して、迅速に原因を調査し、わかりやすく報告することを大切にしています。患者さんにお困りごとやご不安を少しでも解消していただくためには、お問い合わせ内容から患者さんが本当に困っておられることは何かを読み取り、その原因を推定して、解決につながる情報提供や提案を十分にできるようにしたい。そのために、担当のMRに対して、お問い合わせ内容を詳細に確認したり、調査結果の報告や提案の内容について補足説明したりするなど努めています。また、報告・提案する内容には専門用語をなるべく使わずに、患者さんにとってわかりやすい表現や言葉を使うように心がけています。

適切な治療を患者さんに 受けていただくために

患者さんの中には、点眼剤をうまくさすことができなかつたり、薬液が予定よりも早くなくなってしまうりするなど、さまざまな事情により困っておられる方がい



よりわかりやすい資料を患者さんへ提供するため、
同じチームのメンバーと議論

らっしゃいます。私たちチームは、そのような患者さんに、少しでも早くお困りごとを解消していただきたいという思いで取り組んでいます。

患者さんからのお問い合わせの中で少ないものは、患者さんに点眼の仕方や保管方法についての理解を深めていただくことで未然に解消できると考え、数年前から、チーム全員で説明資料やポスターなどを作成し、MRを通じて医療機関や薬局に配布する活動を進めてきました。お問い合わせの数が年々減りつつあり、このような患者さん視点での取り組みにやりがいを感じています。

今後も、患者さんに適切な治療を受けていただけるよう、チーム一丸となって取り組んでいきます。

公正な事業取引

参天製薬グループは、事業活動を行う国や地域における法規・事業慣行等を遵守します。参天製薬グループは、取引先を私たちのパートナーと考え、相互の発展をめざすとともに、法規・事業慣行等の遵守を求めます。

事業取引における
コンプライアンス
確保

コンプライアンス意識を醸成する

コンプライアンス確保のための
仕組みを整備・運用する

※本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。
※活動項目ごとのKPIによる評価 (Check) と次年度の活動方針 (Action) は、「2015年度CSR活動総括」(P31～32)に掲載しています。

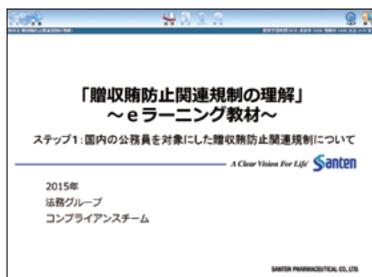
事業取引におけるコンプライアンス確保

コンプライアンス意識を醸成する

事業活動に応じた教育・啓発活動の実施

当社では、遵守すべき法令や規制について研究開発、生産、販売などの事業活動に即した形で「参天企業倫理綱領」にまとも、派遣社員を含むすべての社員に対して、適宜研修を実施しています。全社員が知っておくべきことについては定期的にニュースレターを発行、また、担当業務に応じ、より深く理解しておくべき法令や規制などについては部門や部署ごとに教育・研修を行い、理解・徹底に努めています。さらに、「CSR推進概念」に基づくリスク評価を行い、理解・浸透状況を定期的に確認しています。

2015年12月には「贈収賄防止関連規制の理解」、2016年3月には「安全保障輸出管理」のeラーニングを実施し、守るべき事項や手続きについて理解を深めました。



「贈収賄防止関連規制」のeラーニング資料

コンプライアンス確保のための仕組みを整備・運用する

個人情報保護の徹底

当社では、患者さんや一般消費者の方々、社員の個人情報を適正に取り扱い、保護するために、「個人情報保護方針」と個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムを策定し、役員・社員への教育研修を通じた周知徹底と、適正な運用に努めています。2016年1月からのマイナンバー制度の運用開始に伴い、特定個人情報等の取り扱いに関する「基本方針」ならびに「規程」を制定し、より厳格な運用に努めています。

公正な取引を確保するための仕組みの整備と運用

当社では、競合見積もりを行うとともに、品質、納期、経営上の信頼性などを総合的に評価したうえで、購買先・仕入先の決定が確実になされるように「購買管理規程」などの社内規程を整備しています。また、暴力団排除条例に則った対応にも取り組んでいます。併せて、利益相反防止のために、取引先からの利益提供の禁止について「参天企業倫理綱領」の「行動規範」に規定、相互に牽制の効く体制を整備しています。

社員の理解促進のために、入社時および管理職登用時には全員を対象として、また、部門別にも担当業務内容に応じた研修を適宜、実施しています。併せて、年に1度実施している管理職による自己点検において担当組織内での規程などの理解状況ならびに遵守状況の確認を行うとともに、社内監査による確認を定期的に行っています。

取引先との健全かつ発展的な関係の構築

購買先・仕入先は、患者さんに医薬品等をお届けするための重要なパートナーであるとの考えから、「下請代金支払遅延等防止法」の遵守、提供情報の秘密保持はもとより、持続的に発展しあえる関係をめざし、相互交流や共同での品質向上や原価低減のための改善活動に取り組んでいます。



取引先と当社工場関係者との意見交換会の様子

人権尊重

参天製薬グループは、事業を行うすべての国と地域において、人権を尊重した活動を推進します。参天製薬グループは、従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、お互いに敬意を払い、連帯感のある職場づくりを推進します。

事業活動における人権尊重

人権尊重意識を醸成する

※本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。
※活動項目ごとのKPIによる評価 (Check) と次年度の活動方針 (Action) は、「2015年度CSR活動総括」(P31～32) に掲載しています。

事業活動における人権尊重

人権尊重意識を醸成する

改正障害者雇用促進法に対する取り組み

当社は、企業の社会的責任として、働く意欲と能力のある障がい者の働く場を積極的に開発、提供し、仕事を通じた成長と自立を支援しています。現在、国内では子会社と合わせて約40人の障がいのある方々が、さまざまな場で事業遂行に貢献しており、会社としてこうした方々に働きやすい職場環境を提供し、整備することに努めています。

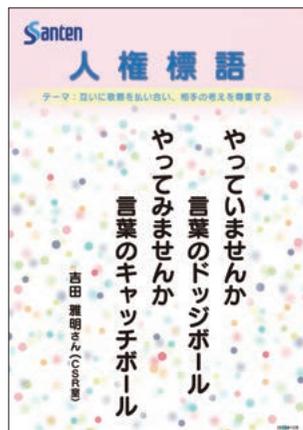
2016年4月に改正障害者雇用促進法が施行されたことを受けて、法の主旨や目的、障がい特性に関する正しい知識を習得し、理解を深めるための啓発活動を行うとともに、改正障害者雇用促進法の3つのポイントに即して取り組みを進めています。

「標語の募集」を通じた人権尊重意識の醸成

当社では、人権啓発活動の一環として全社員を対象に、毎年、人権標語を募集しています。2015年度は、職場、さらには国を超えた多様な人材との連携と協働に重要な行動となる「互いに敬意を払い合い、相手の考えを尊重する」をテーマとしました。応募作品の中から全社員の投票によって選ばれた優秀作品を表彰するとともに、社員が日頃から人権尊重

について考えるきっかけとなるよう、優秀作品のポスターを各事業場に掲示しました。

今後も、社員一人ひとりが、「高い倫理観を持ち、お互いに敬意を払い、連帯感のある職場をつくる」という意識を持ち、行動することを推進します。



2015年度人権標語優秀作品のポスター

PDCAマネジメントの実践による啓発推進

社員一人ひとりへの人権尊重意識・行動の浸透に向けて、入社時および管理職登用時の研修に、人権教育を必須項目として組み入れています。また、外部講師を招いて経営幹部を対象とした研修を定期的実施しているほか、部門単位の研修など、年間を通じて全社員への啓発活動を実施しています。

啓発活動においてもPDCAサイクル*の考え方を取り入れ、啓発の主題をこれまでの「知識の提供」から「行動を促す職場での対話の創出」へと移行し (Plan)、ニューズレターなどを活用した職場内対話の実施 (Do)、対話の実施状況・結果の確認 (Check)、部門ごとの実施状況や好事例の共有とさらなる促進 (Actionから次のPlanへ) につながるよう、取り組んでいます。



過去に発行したニューズレター

*PDCAサイクル＝事業活動を円滑に進める手法の一つ。P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す

研究開発における人権尊重への取り組み

血液、細胞などの「ヒト由来試料」を利用する医薬品の研究において、各種倫理指針の趣旨を遵守するため、「研究倫理委員会」を設置し、倫理面での適切性や実施内容の妥当性などを審議しています。審議が公正に行われるよう、委員長は研究部門外の役員とし、研究部門の内外部から選任された委員と社外委員とで構成されています。臨床試験の実施にあたっては、被験者となる患者さん本人の自由意思によって参加いただき、患者さんの安全性の確保に努めるため、必ず、予想される効果や起こる可能性のある副作用などについて十分に説明し、同意を得ています。加えて、患者さんの個人情報保護が確保されるよう必要な措置を講じています。このように、被験者の方の人権と安全が確保された形で臨床試験が行われるよう、社内では「プロトコル検討会」による審議を事前に行っています。

労働・安全衛生

参天製薬グループは、「人命」を第一に考え、従業員の安全確保および健康増進を図り、働きやすい職場環境の維持・向上を推進します。

中期活動テーマ

Plan 活動項目



※本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。
 ※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度の活動方針(Action)は、「2015年度CSR活動総括」(P31～32)に掲載しています。

働きがいのある職場環境づくり

ダイバーシティ(多様性)を推進する

「女性活躍推進法」への取り組み

2016年4月より「女性活躍推進法」が施行されました。当社では現状を確認し、性別などにかかわらず、会社と家庭、ワーク・ライフ・バランスの適正化を推進することが、仕事への集中力、生産性向上を生み、人材の成長ひいては企業の成長につながるものと考え、第1期の行動計画を策定しました。

●主な行動計画

1. 一部で慢性化しつつある時間外労働を具体的目標・期限を決め削減する。
2. 育児・介護・配偶者の転勤等のために退職せざるを得なかった社員に対し、再雇用の機会を提供できる仕組みを構築する。
3. 育児・介護支援制度の見直し、男性の育児・看護休暇の取得推進など、より女性活躍推進に資する内容にすべく検討を行う。

ピック[※]への参加を奨励しています。2015年11月に開催された滋賀大会では、社員8人がそれぞれ製品パッキング競技、喫茶サービス競技、データ入力競技などに参加しました。他にもクリーニング師の資格試験に挑戦し合格するなど、社員一人ひとりの社会的自立をめざし、さまざまな自主的な活動や挑戦を支援しています。

※アビリンピック=「全国障害者技能競技大会」のこと。障がいのある方が就職して自立するという考え方を広めるとともに、雇い主や社会全体に理解してもらうことを目的に毎年開催されている



クリーニング作業の様子



自主勉強会の様子

障がい者にとって働きやすい職場の確立と自立の支援

当社では、障がい者雇用を促進するとともに、いきいきと働くことができる職場環境の確立に努めています。滋賀プロダクトサプライセンターの敷地内にある特例子会社の株式会社クレール(以下、クレール)では、2016年6月現在、20人の障がいのある方を雇用しています。

クレールの主な業務は、当社の能登工場と滋賀プロダクトサプライセンターで使用している無塵服や滅菌服のクリーニングです。また、他社からのクリーニング業務も請け負っています。

さらにクレールでは設立以来、社会常識、ローマ字、地理など、社員が仕事や日常生活に活かせるテーマを選び、自主勉強会を開いています。また、2004年から継続して、アビリン

人材の育成を推進する

基本理念に基づいた人材の育成と成長機会の提供

グローバルな環境の中でも「参天らしく」成長していくためには、基本理念を実践し、当社として期待する行動を体現する人材に機会を提供して成果に報いることや、多様性を活かし、人材が互いに力を高め合う組織風土を創ることが大切であると考えています。

この基本的な考え方にに基づき、参天製薬グループすべての組織と人に実践を期待する行動を「サンテン・リーダーシップ・コンピテンシー」として定義し、これを核としてグローバルに組織・人材づくりを進めています。教育プログラムとして「階層別研修」や「スキル研修」を実施しているほか、組織を超えた異動や海外関連会社への出向など社員の成長につながる機会を積極的に提供しています。

安全衛生の確保

社員の安全を確保する

安全衛生マネジメントシステムの構築と運用

社員の安全衛生の向上を図るため、各事業場の特性・規模に応じたマネジメントシステムを構築しています。無責事故[※]を除いた業務災害0件を目標に、事業場ごとに定期的に潜在する危険要因を洗い出し、発生しうるリスクを評価したうえで対策を実施しています。労働災害が発生した際には、発生原因を究明し未然防止策を講じるとともに、各安全衛生委員会やイントラネットなどを通じて全社に周知・注意喚起しています。また、海外でも同様に取り組みを進めており、フィンランドの子会社サンテン・オイでは安全衛生マネジメントに関する国際的な認証「OHSAS18001」を2008年に取得し、維持しています。中国の蘇州工場でも安全衛生委員会を組織し、活動しています。

2015年度の労働災害は15件でしたが、マネジメントシステムの継続的な運用などにより、10年間で半数以下となりました。

※無責事故＝停車中に追突されるなど、本人および当社に過失がない交通事故



安全啓発に関する取り組み

社員の安全意識を啓発するため、定期的な安全衛生ニュースの発行や入社時および管理職登用時に教育を行っています。

2015年7月の全国安全週間には、全社員を対象に転倒災害防止をテーマとした安全標語を募集しました。100点近くの応募の中から優秀作品として6点を選定し、公開・周知することで、安全意識の啓発に活用しています。また、今年度より、安全確保に対する動機づけを目的に、一定の期間、休業災害をゼロに抑えた事業場に対して社内表彰を行うこととしました。2015年7月には奈良研究開発センターが、2015年10月には滋賀プロダクトサプライセンターが連続無災害1,000日を達成し、表彰されました。



(左)奈良研究開発センター、(右)滋賀プロダクトサプライセンターの社内表彰の様子

社員の衛生を確保する

社員の健康づくりを支援

当社では、産業医や看護師などの産業保健スタッフから構成される健康支援室を各事業場に設置し、健康の維持と疾病の発生を未然に防ぐ一次予防、不調者の早期発見のための二次予防に努めています。加えて、休業からの復職支援や疾病の再発防止のためのケア体制を整え、各職場および社員と連携を図りながら、心身両面での健康の維持と増進に取り組んでいます。

全社員を対象とした健康診断では、2015年度より、眼科領域のスペシャリティ・カンパニーとして社員の目の健康を確保するため、眼科健診を導入しています。

メンタルヘルスの保持・増進

厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」および、社内の「メンタルヘルスクア方針」に基づき、以下の取り組みを実施しています。

参天製薬メンタルヘルスクア方針

経営トップを主体とした全組織による継続的な活動を展開することで、精神健康度のアップとストレス耐性を強化し、元気で活き活きとした職場環境を実現することをめざします。

1. セルフケア

- ・全社員対象に「健康調査(ストレスチェック)」を実施し、自主的にストレス状態改善に取り組めるプログラムを提供
- ・入社3年目以内の社員を対象に、ストレス耐性を高める研修を実施

2. ラインによるケア

- ・管理職登用時にメンタルヘルス研修を実施
- ・いつでも必要な情報を入手できるように、「ラインケアハンドブック」を全管理職に配付

3. 産業保健スタッフなどによるケア

- ・「健康調査(ストレスチェック)」の結果において、ケアが必要な社員に対し個人面談を実施
- ・「試し出勤制度^{※1}」や「社内メンター^{※2}」により、メンタルヘルス不調による休職者の職場復帰を支援

4. 社外の専門家によるケア

- ・社員とその家族が、健康・医療・育児・介護などの相談やカウンセリングを利用できる社外相談窓口を設置
- ・契約メンタルヘルス専門医や、産業カウンセラーを有する専門企業と連携し、メンタルヘルス不調の社員に対応



ラインケアハンドブック

※1：試し出勤制度＝メンタルヘルス不調による休職者が本格的に職場復帰する前に、就業に向けた不安の解消と、職場への適応性、可能性を判断する制度

※2：社内メンター＝会社の組織風土、環境、事業内容、人間関係などに精通し、経験豊かな元管理職などのベテラン社員を「社内のメンタルヘルス専門家(社内メンター)」として養成し、メンタルヘルス不調による休職者の職場復帰を支援しています

組織としての総合力を高め 世界の患者さんに貢献し続ける

多様な人材が能力を発揮し協働する組織風土づくり

多様な人材が協働するための 職場環境の整備

多様な人材が互いに価値観を認め合い、経歴や文化的背景の異なる社員一人ひとりが、ライフステージの変化や性別にかかわらず持てる能力を最大限に発揮できる職場環境の整備に努めています。育児支援制度の導入から10年が経過し、多くの社員が産後も職場に復帰し育児と仕事を両立しています。また、介護支援制度の整備にも取り組んでいます。

2016年4月には「女性活躍推進法」が施行されました。参天製薬では、1.時間外労働の削減、2.育児・介護・配偶者の転勤などのために退職せざるを得なかった社員に対する再雇用機会の提供、3.男性の育児・介護休暇取得推進、に対する行動計画を策定し、取り組んでいます。

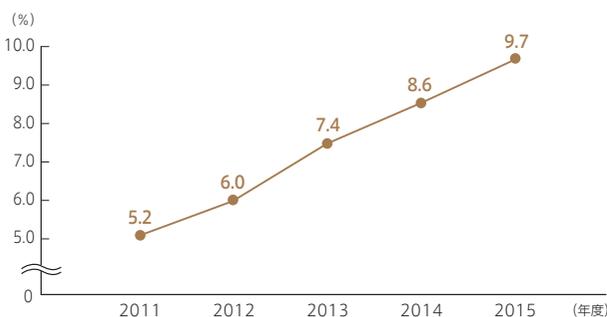
今後も各種制度を充実して働きやすい環境を整えるとともに、社員一人ひとりの多様性を活かし、互いに力を高め合う組織風土づくりに努めます。

●育児・介護支援制度(抜粋)と利用人数

制 度		2013年度	2014年度	2015年度
特別休暇 (有給)	産前産後休暇	18	17	18
	未就学の子の看護休暇	6	7	5
	介護休暇	4	2	2
育児休業制度		17	18	16
育児短時間勤務制度		12	6	8
介護休業制度	介護休業	1	1	0
	介護短時間勤務	1	0	0
年次有給休暇 積立制度※	家族看護休暇	65	63	73
	小学生以下の子の育児休暇	37	40	36

※年次有給休暇積立制度=未消化の年次有給休暇を最高40日まで積み立てられる制度

●管理職における女性比率推移



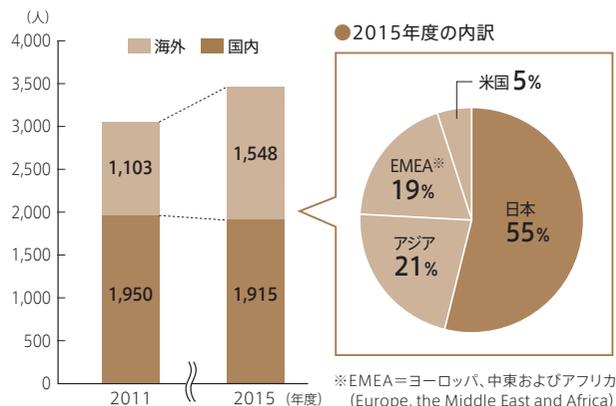
世界中の人材が基本理念のもとで 一体となれる組織へ

当社は、2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて事業のグローバル展開を加速し、海外社員比率も約45%となりました。このグローバル化の進展による規模や地理的な拡大、人材の多様化に対応するため、中期経営計画の基本方針の柱の一つに「組織・人材」を掲げ、組織づくりと人材育成に取り組んでいます。

研究開発、生産、信頼性保証などの機能は国別を主軸とした組織から機能別を主軸とした組織へと体制を移行しました。この結果、たとえば研究開発本部は米国に中心拠点を置き、本部長をはじめ、本部長が直接統括する10人のうち5人が日本以外の国の出身者です。このような状況において、国を超えてプロジェクトチームを組んで仕事をするのが日常的になってきています。

さまざまな文化的背景や経験を持った社員同士の協働が求められる中、世界中の社員が当社の基本理念に基づいて取るべき行動を明示した共通のことであり、「サンテン・リーダーシップ・コンピテンシー (SLC)」を制定しました。これは、社員一人ひとりの能力開発と、キャリアプラン策定に向けた基軸となるものです。SLCに基づいて人事制度も新しく構築しました。多様化する社員が「One Santen, One Team」として結束し、グループの総力を高めることで、世界の患者さんのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に貢献し続ける組織をめざします。

●地域別社員数の推移



ダイバーシティを
組織の力に
変える

「One Santen, One Team」 世界の患者さんのために 協働できる組織をめざして

サンテン・インク
ヴァイスプレジデント
グローバルメディカルアフェアーズ
統括部長

テリー・フィリップス

ワーク・ライフ・バランスを 考えたキャリア転換

およそ15年前に新生児科の常勤臨床医からキャリアを大きく転換しました。4人の子どもを育てながら、新生児の命を預かる日常は、あまりに多忙すぎたからです。新たに製薬企業の研究開発職に就き、母として、職業人として、個人としてバランスがうまく取れるようになりました。専門性を活かしながら患者さんに貢献するという、私にとって最良の選択ができたと思います。週末は医師として臨床にも携わりながらキャリアを重ねた後、参天製薬へ入社しました。

参天製薬の基本理念は、「患者さんの役に立ちたい」という私の一貫した思いに重なります。その理念に基づき、眼科領域に特化した戦略を掲げ、アジアだけで



多様なキャリアの人材が集う職場にて

はなくグローバルに事業を展開し、世界の患者さんに貢献するために前進していることに魅力を感じました。そして、当面の課題の一つであるグローバル企業としての組織づくりに、これまでのキャリアで培った私の強みが活かせることも入社を決めた理由です。

共通の目標に向けて 多様な人材が結束できる組織づくり

以来、当初から希望していたとおり、グローバルでの組織構築・運営を担い、世界中の現場を飛び回っています。私の統括する組織では、日・米・欧・アジアなどの国々をまたいで、さまざまな専門分野、異なる経歴を持つ人たちが協力して仕事をしています。仕事を進めるためには、メンバーが心を一つにして働くチームとしての総合力が重要です。そのためには、顧



より多くの女性の活躍を願うテリー

客視点で共通の目標を持つことが大切だと考えています。

誰一人としてチーム全員より賢いことではないのです。世界中のメンバーが国や言語の違いを超え、それぞれが持つ知恵や情報を結集して、最大の成果を生み出す組織をめざしています。

私個人としては、目標に向かって自身の専門性を高めることで年齢や性別にかわりなく活躍できることを、ロールモデルとなって示していきたいと考えています。

環境保全

参天製薬グループは、生物多様性が生み出す自然を地球環境の重要な基盤であると認識し、地球環境を保護・保存し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ための活動を推進します。

中期活動テーマ

Plan 活動項目

地球温暖化対策

CO₂削減に向けた取り組みを推進する

排出・廃棄対策

ゼロエミッション活動を推進する

環境汚染を予防する

環境保護

環境保護活動を実施する

▶ 環境保全に関する実績の詳細は、当社ウェブサイト内の「環境データブック」に掲載しています。

※本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。

※活動項目ごとのKPIによる評価 (Check) と次年度の活動方針 (Action) は、「2015年度CSR活動総括」(P31～32)に掲載しています。

地球温暖化対策

CO₂削減に向けた取り組みを推進する

CO₂排出量削減の取り組み

当社は、老朽化した機器の更新時に燃焼系から非燃焼系へのエネルギー転換や高効率機器の採用などにより、CO₂排出量削減に積極的に取り組んでいます。2013年度からは、日本製薬団体連合会の低炭素社会実行計画に参加し、「2020年度のCO₂排出量を2005年度比23%削減する」中期目標を設定して取り組みを進めています。

2015年度のCO₂排出量は、工場の再編および各事業場での継続的な省エネルギー推進が寄与し、前期に比べ12.8%減少の23,751トンとなり、目標の24,311トン以下を達成しました。

CO₂排出量の推移



※環境保全に関する実績の詳細は、「環境データブック」に掲載しています。

環境マネジメントシステムの維持・運用

当社は、生物多様性が生み出す自然を地球環境の重要な基盤であると認識し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ための環境保全活動を重要な経営課題の一つとして位置付け、低炭素社会や循環型社会の実現に貢献する取り組みを推進して

います。

そのため、事業活動と一体となった環境保全体制を構築し、さまざまな環境課題に組織的に取り組むとともに、社員一人ひとりの自発的活動を通じた環境保全活動の実践をめざしています。

ISO14001認証取得状況と環境監査

日本国内では滋賀プロダクトサプライセンター、能登工場、特例子会社であるクレールを含めた統合組織として環境マネジメントに関する国際規格ISO14001認証を取得しています。海外ではフィンランドの子会社サンテン・オイが2008年9月に営業活動も含めて取得し、継続的に維持しています。

環境監査については、環境マネジメントシステムが適切に運用されているかを事業場が主体となって定期的に内部監査しています。その他、他社から受託している製造の工程について、委託元による立ち入り監査を受け入れており、他社での取り組み事例を学ぶ良い機会として、環境対応の取り組みに活かしています。

「日本電気協会北陸支部会長表彰」を受賞

能登工場では、継続的に行ってきた省エネ機器の導入および省エネルギー法への対応が評価され、平成25年度の事業場としての受賞に続き、具体的な省エネルギー策の企画と実施推進に積極的に取り組んできたエネルギー管理士が、平成27年度エネルギー管理功労者として「日本電気協会北陸支部会長表彰」を受賞しました。今後も地球環境保全のため、省エネルギー活動に取り組んでいきます。



2016年2月の表彰式の様子

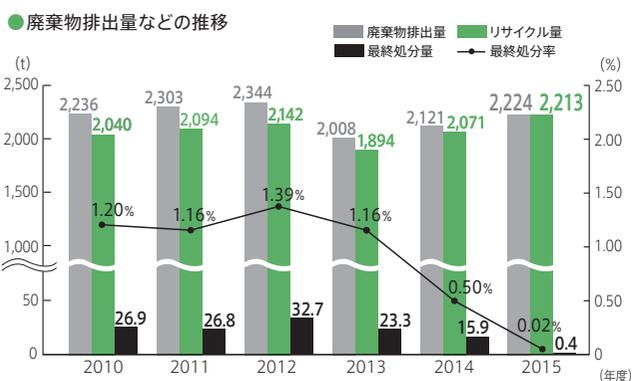
排出・廃棄対策

ゼロエミッション活動を推進する

3R推進による廃棄物削減の取り組み

当社は、5年を計画期間とする中期目標を設定し、計画的に廃棄物削減に取り組んでいます。具体的には、廃棄物の根本的な発生抑制（リデュース）、流過程の梱包材や事務用品などの再利用（リユース）、廃棄するものについては分別を徹底し再資源化（リサイクル）する3R活動を推進しています。

2015年度は、リサイクル率の目標98.4%以上に対し実績99.5%、最終処分率の目標0.07%以下に対し実績0.02%となり、目標を達成しました。また、2015年度までに最終処分率を0.1%以下にする中期目標も達成しました。さらなる廃棄物削減をめざし、2020年度までに最終処分率を0%にすることを新たに中期目標として設定しました。



環境汚染を予防する

環境汚染予防に対する取り組み

法令や条例の規制基準に基づき、事業場ごとに、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動など多項目にわたって定期的に測定・分析し、適切に管理・把握しています。

● 事業場ごとの環境データ

		能登工場		滋賀プロダクトサプライセンター		奈良研究開発センター	
		基準値 ^{※1}	測定値	基準値 ^{※2}	測定値	基準値 ^{※3}	測定値
大気	ばいじん [g/Nm ³]	0.3	0.01	0.2	0.006	0.1	0.001
	NOx [ppm]	150	48	180	35	150	33
	SOx [Nm ³ /h]	0.98	0.05	測定対象外		測定対象外	
水質	pH	5.8~8.6	7.3~7.9	5.0~9.0	7.3~8.0	5.0~9.0	6.7~7.4
	BOD [mg/l]	160	6.1	600	43	1,500	30
	COD [mg/l]	80	6.3	600	25	測定対象外	
	SS [mg/l]	120	35	600	29	1,500	31
騒音	朝 [dB]	60	48	50	48	60	40
	昼間 [dB]	65	51	55	49	65	43
	夜間 [dB]	60	49	50	47	60	40
振動	昼間 [dB]	50	47	45	47	50	40
	夜間 [dB]	65	34	70	27	65	25

※1:宝達志水町公害防止協定に基づいています

※2:滋賀県公害防止条例(大気)、多賀町公害防止および環境保全に関する協定(水質・騒音・振動)に基づいています

※3:生駒市公害防止協定に基づいています

環境保護

環境保護活動を実施する

地域の環境美化活動

当社では、地域の環境美化に貢献するため、自治体および地域の団体などとも連携して美化活動を行っています。

2015年度は、能登工場では工場周辺の美化活動を7回、滋賀プロダクトサプライセンターでは、5月と7月に自治体が主催する美化活動に参加した他、事業場敷地内および周辺の美化活動を5回行いました。下新庄オフィスでは6月に地域の自治体と共同で事業場周辺の美化活動を実施しました。奈良研究開発センターでは6月と10月に「富雄川クリーンキャンペーン」に参加し、富雄川河岸の清掃と花の苗植えや種まきを行いました。これらの活動に延べ527人が参加しました。



能登工場周辺の清掃の様子



下新庄オフィスの美化活動の様子



「びわ湖の日」美化活動の様子



「富雄川クリーンキャンペーン」の様子

森林保護活動

当社では、二酸化炭素の吸収だけでなく、豊かな自然と水源かん養力の維持により、生物多様性保全にもつながる森林保護活動に取り組んでいます。

能登工場では、環境保全活動の一環として、企業、地域団体、NPO、学校などが行う里山里海保全活動などの取り組みを石川県が認証する「いしかわ版里山づくりISO」を2015年5月に取得しました。具体的な取り組みとしては、宝達山水源の森づくり協会が主催する植樹地管理活動や植樹会に参加しています。2015年度は10月の植樹会に参加しました。



「いしかわ版里山づくりISO」の認証書



認証書公布式の様子

社会貢献

参天製薬グループは、事業分野における医療の発展、福祉の充実に向けた活動、および良き企業市民としての活動を推進します。

中期活動テーマ

Plan 活動項目

事業分野における医療の発展と福祉の充実

患者さんや支援団体などへの貢献活動を充実する

医療関係者への貢献活動を実施する

企業市民としての活動

社会貢献活動を実施する

※本レポートでは、活動の一部をご紹介します。その他の活動は当社ウェブサイトをご覧ください。
 ※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度の活動方針(Action)は、「2015年度CSR活動総括」(P31～32)に掲載しています。

事業分野における医療の発展と福祉の充実

患者さんや支援団体などへの貢献活動を充実する

彦根学園学園祭・運動会へのボランティア参加

彦根学園は滋賀県彦根市にある盲重複障がい[※]のある人たちの生活全般にわたる支援と福祉向上に努めておられる施設です。滋賀プロダクトサプライセンターでは、5月に開催される学園祭と10月に開催される運動会に、10年以上にわたりボランティアとして参加しています。2016年5月に開催された学園祭には、社内公募を通じて21人が参加し、模擬店のお手伝いをさせていただきました。また、2015年10月に開催された運動会には、17人の社員が参加し、施設利用者の方に付き添い、趣向を凝らした競技に励みました。



文化祭での模擬店の様子

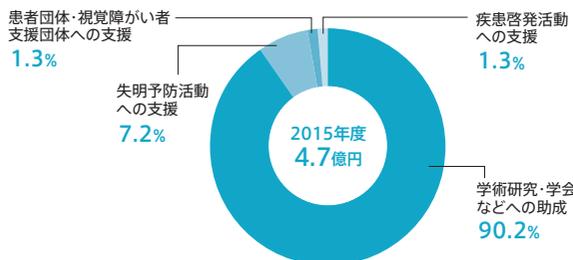
※盲重複障がい＝視覚障がいに加え、知的障がい、運動機能障がいなどの他の障がいがある、より重度の障がい

医療関係者への貢献活動を実施する

医学・薬学の発展を目的とした寄付の実施

当社では、「目」にかかわる分野を中心に医学・薬学の発展、医療への貢献を目的として、大学などの研究機関や、学術集会(学会)、専門医の方々による研究会に対する寄付を行っています。角膜移植の普及、国内外の医療関係者やNGOなどによ

● 2015年度の医学・薬学の発展、医療への貢献などに対する寄与と対象



る発展途上国における失明予防活動、患者さんや視覚障がい者の方の自立を支援する活動、眼科医会や公益財団法人などの団体が行われる疾患などの啓発活動に対する寄付も継続的に行っています。

企業市民としての活動

社会貢献活動を実施する

被災地支援活動に対する援助

当社は、2016年4月14日から発生している熊本地震により被災された方々と地域への支援を目的に、日本赤十字社および中央共同募金会を通じ、義援金2,000万円に加え、マッチングギフト制度[※]により、881万円を寄付しました。また、子会社の台湾参天製薬では、2016年2月に台湾南部で発生した地震による被災地への支援を目的に、台南市政府へ100万台湾ドル(約350万円)を寄付しました。さらに、参天製薬グループ従業員組合では、東日本大震災の被災地でのボランティア活動を継続的に行っています。

※マッチングギフト制度＝社員の寄付と同額を会社が上乗せし、寄付する制度

「高山サイエンスタウンフェスティバル」への参加

奈良研究開発センターでは、毎年、「けいはんな学研都市」高山地区で開催される「高山サイエンスタウンフェスティバル」に参加しています。この催しを通じて科学に親しみ、目の健康と当社への理解を深めていただけるよう、センターの一部を公開して、当社研究員が医薬品の研究・開発や、目に関する基礎知識などについて来場者の方に直接説明しています。2015年11月の開催では1,257人が来場され、「普段入れない研究所を見学できてよかった」「大変勉強になった」などの感想をいただきました。



「1日研究員になって、オリジナル点眼液づくりを体験してみよう」のコーナー

ボランティア活動を通じて得られる、 目の不自由な方との交流の機会と気づき

「京都ライトハウスまつり」でのボランティア活動

活動の背景

当社は、失明予防に取り組む国内外の団体への寄付や海外医療支援活動への医薬品などの提供、発展途上国における眼科医育成に対する支援など、事業分野である眼科領域を中心とした社会貢献活動の充実に努めています。

当社では、優れた製品・サービスを提供し、患者さんのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に貢献し続けていくためには、社員一人ひとりが「真の顧客志向」、すなわち、患者さんや患者さんを愛する人たちの視点で考え行動することが不可欠だと考えています。このような考えから、患者さんや目の不自由な方への貢献とともに、双方向的な交流が望めるボランティアの機会をつくることに取り組んでいます。2011年より主要な事業場近郊の視覚特別支援学校や視覚障がい者団体、視覚障がい者支援団体への訪問を開始しました。2012年夏に大阪で開催された「全国盲女性研修大会」で、初めてボランティアの機会をいただきました。その後、視覚障がい者支援団体でのイベントなどにおいて継続的にボランティアの機会をいただけるようになり、社員有志が参加させていただいています。

視覚障がい者福祉にかかわるこれまでの取り組み

- 2011 ● 視覚特別支援学校の生徒さんと社員有志とのスポーツを通じた交流(大阪府)
- 2011 ● 視覚特別支援学校や視覚障がい者団体、視覚障がい者支援団体への訪問開始
- 2012 ● 視覚に障がいのある方々とのグランドソフトボール交流試合を開始(滋賀県)
 - 「全国盲女性研修大会」にボランティアとして参加(大阪市)
 - 視覚特別支援学校主催の「点字ブロック理解・啓発活動」に参加開始(石川県から始まり、大阪府、大阪市、滋賀県、奈良県で参加)
- 2013 ● 「全国盲学校野球大会」にボランティアとして参加(石川県)
 - 京都ライトハウス・日本ライトハウスのイベントにボランティアとして参加開始
 - 盲導犬育成支援のための寄付と募金箱の設置を開始(現在に至る)



京都ライトハウスと参天製薬のかかわり

視覚障がい者総合福祉施設の京都ライトハウスには、2012年に初めて訪問。以降、同施設で年1回開催されている交流イベント「京都ライトハウスまつり」に、2013年から毎年、社員有志がボランティアとして参加しています。ボランティア参加者は、目の不自由な方を誘導するための「手引き」の仕方と注意点などを、事前に社内で開催される講習会を受講して学びます。イベント当日は、目の不自由な方だけでなく、他のボランティアや職員の方との交流を通して、さまざまな気づきをいただいています。また、ボランティアで参加できなくとも、イベントを見学する社員や、家族で参加する社員もいます。



社会福祉法人 京都ライトハウス



「京都に盲学生のための図書館を」という願いに応え、1961年に創立。視覚障がい者の総合施設として発展。京都府眼科医会とも深くつながり、医療分野と福祉分野との連携強化にも積極的に取り組んでいます。

京都ライトハウスまつり

京都ライトハウスの利用者やご家族と、ボランティア、職員、近隣の方々の交流を目的に、毎年開催。施設利用者の方によるステージ発表や、視覚障がいに関する啓発・体験コーナーも充実。楽しみながら視覚障がいについて理解を深め、交流を図ることができるイベントとして、1,000人を超える来場者で賑わいます。



Voice

・ 活動現場の声

視覚障がい者
支援活動



親しく対話をしながら会場内をご案内

ボランティアに参加したことで 得られた気付き

私は、医薬品の候補化合物や既存製品の薬理作用を評価する業務を担当しています。普段、患者さんと接点を持つ機会はないため、医薬品のユーザーである患者さんの話を直接、聞いてみたいと感じていました。

京都ライトハウスでのボランティアに参加した先輩社員の話を聞き、私にも何か力になれることがあるかもしれないと考えました。加えて、目の不自由な方のお話を聞くことができるかもしれないと思い、2014年に初めてボランティアに参加しました。

初回は、目の不自由な方とほとんどお話することができませんでした。今回は「臆せずお声掛けする」ことを目標に参加し、多くの方の手引きをさせていただくことができました。そして、いろいろな方からお話を聞くこともでき、「弱視の方向への文書は、背景を青地や黒地にして白文字で記載した方が読みやすい」場合があるなど、健常者の視点では気付かないことを多く知ることができました。



一緒に参加したボランティアと交流

「患者さんの視点で考える」 このことを追究し続けたい

以前は、「薬の効き目を得るためには、患者さんに点眼回数を守っていただくことが必要」と考えていました。ボランティアに参加してからは、患者さんの利便性も考慮して、「より少ない点眼回数でも効果が得られるようにするためには、どうすればいいだろうか」などと、患者さんの視点で考えることが増えてきました。そして、少しずつですが、私の仕事と患者さんにつながっていると感じられるようになってきました。

患者さんが必要とされていることは何か、これに応えるためには何をすべきかについて深く考え、患者さんに貢献できるようにしたいと思っています。

患者さんの視点で考え、
必要とされていることに
応えたい

研究開発本部
グローバル非臨床研究統括部
眼科薬理グループ

高橋 美妃

参加して
初めて得られた気付き。
自身の経験を
共有することで、
機会づくりに貢献したい

研究開発本部
グローバル臨床開発統括部
臨床開発グループ アジア臨床開発チーム

岡田 真二

ボランティアに参加したことで 患者さんのことをより意識しはじめる

入社後は主に眼の病気と治療を中心に勉強してきましたが、ある時、新聞で目にした記事をきっかけに、視覚障がいについても関心を持つようになりました。そのような中、2012年にボランティアの社内募集があり、「患者さんと接したことがなければ、患者さんの立場で考えることはできない」という思いから参加しました。

それまでは、実施側の視点だけで、治験[※]の計画を立てていましたが、ボランティアに参加して、「来院回数が少ないほど患者さんの負担が少なくなる」ことなど、患者さんのことをより強く意識し考えるようになりました。今では、このような気付きを得るといふことと併せて、さまざまな方と

※治験＝厚生労働省から業として承認を受けるために、ヒトでの有効性や安全性について調べる臨床試験のこと



盲導犬による誘導を体験

の触れ合いを楽しむ機会として、種々のイベントに家族と参加しています。

経験を共有することで 社員の輪を広げたい

ボランティアに参加するまでは、街中で白杖を持った方に気付くこともありませんでしたが、今では、目の不自由な方だけでなく、お手伝いが必要だと思われる方をお見かけすれば、自然とお声掛けできるようになりました。

当社では、事業活動とCSR活動を一体として推進しています。優れた革新的な眼科治療薬を開発、提供することだけでなく、さまざまな角度から、目にかかわる分野で社会に貢献することを実践したい。そのためには、患者さんのことを知ること、患者さんの視点に立って考え、行動



自ら積極的にお声掛け

することが不可欠であると考えています。過去にはこのようなボランティア活動に参加したことがありませんでしたが、一歩踏み出せたことで、多くの気付きを得ることができました。ボランティアは一つの機会にすぎませんが、このような活動を広げていくには、参加した社員自身が経験を共有しながら、輪を広げることが必要だと考えています。今後も、活動を楽しみ、自身の経験、気付きを発信していきます。

2015年度CSR活動総括 (KPIによる評価と次年度の)

CSR推進 中核領域	中期活動テーマ	ゴール	Plan	活動項目	Check	KPI ^{※1}	(目標値)
CSRマネジメント	ステークホルダー エンゲージメントの 確立	多様なステークホルダーの 意見を収集し、 CSR活動に反映する 仕組みが完成している	●ステークホルダーダイアログを充実する	ステークホルダー ダイアログの 継続的实施	100%		
			●情報開示を充実する	社外アンケートに おける回答者数 アップ(対前年)	20%増		
			●社員へのCSR推進概念の浸透を図る	入社時・ 管理職登用時の 研修実施	100%		
	リスクマネジメント システムの 確実な運用	CSR委員会を中心に 各PDCAサイクル ^{※2} による リスクマネジメント システムが 確実に運営され、 全CSR活動が 推進されている	●コンプライアンス、安全衛生、防火防災、 環境保全に関するPDCAサイクルを 確実に運用する	CSR委員会開催 (CSR関連5委員会)	年2回		
			●サプライチェーンにおける デューディリジェンス ^{※3} を推進する	デューディリジェンス 実施(対計画)	100%		
適正な製品・サービスの提供	優れた製品の 開発と提供	医療ニーズに対応する 製品を開発し、 安定供給している	●優れた製品を研究・開発する	製品開発進捗 ^{※4}	100%		
			●製品を安定的に供給する	安定供給の 継続的实施	100%		
			●製品の信頼性を確保する	製品回収件数	0件		
	製品・疾患に関する 情報・サービスの提供	目に関する 最新の情報を提供し、 早期発見、適正治療に 貢献している	●患者さんや一般生活者に 有用な情報を提供する	情報提供の 継続的实施	100%		
			●医療関係者に有用な情報を提供する	情報提供の 継続的实施	100%		
	医療関係者・ 患者団体との コンプライアンス確保	医療関係者・患者団体との コンプライアンス逸脱事象が 発生していない	●コンプライアンス確保のための 仕組みを整備・運用する	問題事象発生件数	0件		

※2: PDCAサイクル=事業活動を円滑に進める手法の一つ。P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す
 ※3: デューディリジェンス=CSR(企業の社会的責任)におけるデューディリジェンスとは、組織の決定と活動に関する実際のおよび潜在的な社会に与えるマイナスの影響を特定するプロセス

活動方針

※1: KPI(Key Performance Indicator) = 目標の達成度合いを計る指標。定性的なKPIは目標値を100%としています

▶ (実績値)	実績と自己評価	Action 次年度の活動方針
100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療関係者への情報提供機会や、お客さまからのお問い合わせ対応などの事業活動の各場面でステークホルダーとの対話を行い、活動の充実につなげました。 ● 株主総会、決算説明会など、株主・投資家との対話の機会を持ちました。 ● 専門サイトなどを通じCSRレポートのアンケートを行い活動内容の参考としました。 	○ ステークホルダーの方々との対話の継続・充実を図る
35%増	<ul style="list-style-type: none"> ● 業績に影響を与える情報や決算報告の適時開示を行うとともに、決算説明会資料や動画などを当社ウェブサイトに掲載しました。 ● 活動報告を当社ウェブサイトで発信するとともに、年間総括としてCSRレポートを発行し、専門ウェブサイトなどへの掲載、全国の国公立図書館への配布を行いました。 	○ 参天製薬グループ全体として、海外子会社も含めた情報開示の充実に取り組む
100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 入社時および管理職登用時に、対象者全員にCSR研修を実施しました。 ● イン트라ネット上の掲示板にて、継続的にCSR活動関連情報を発信しました。 ● 全社員にCSRレポートを配布し、内容理解度などに関するアンケートを実施しました。 	○ 社員間の対話機会を増やすなど、継続して浸透活動に取り組む
年2回	<ul style="list-style-type: none"> ● 各CSR委員会を年2回開催し、方針決定、実行計画立案、進捗状況のモニタリングなどのPDCAサイクルを運用し、CSR活動を推進しました。 ● 「CSR推進中核領域」に基づいたリスク評価の結果を踏まえ、全社、部門、個人の各レベルにおいて対策を立案・実行しました。 	○ 継続してPDCAサイクルを運用し、各領域の取り組みレベルの維持・向上を図る
91%	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社のみならず、当社が影響力を行使しうる範囲においても社会的責任を果たすため、原薬の調達先や製造委託先に対し、法令遵守体制、環境保全、労働・安全衛生などの取り組み状況の確認を行いました。 ● 計画は未達でしたが、国内15社、海外4社に対する確認を行いました。 	△ 引き続き計画に基づいた取引先に対する確認を推進する
100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内の医療用医薬品は、1品目を販売開始し、1品目の適応追加承認を取得しました。 ● 海外の医療用医薬品は、EMEA^{※5}では1品目を販売開始しました。アジアでは2品目を販売開始し、2品目の販売承認を取得、2品目の承認申請が受理されました。 ● 一般用医薬品は、1品目を販売開始しました。 	○ 日本国内はもとより、アジア・EMEA地域において新製品の開発を進め、患者さんに求められる医薬品などの提供を進める
94%	<ul style="list-style-type: none"> ● 国外からの旅行者などの需要増により、一般用医薬品の数品目が品薄状態となりました。また、製造ライン点検のため医療用医薬品1品目を一時的に出荷停止いたしました。 ● 新製品発売、展開地域拡大に向け、各工場の生産設備の増強、グローバルでの物流・供給体制の再構築を進めています。 	△ 事業展開地域の拡大に伴う、安定供給体制の構築に継続的に取り組む
0件	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルでの品質目標を設定し、継続的改善に取り組みました。 ● 新たに事業展開した地域における安全監視体制を構築しました。 ● 蘇州工場において、EU-GMP^{※6}に適合しました。 	○ 製品の品質・安全性を確保するため、引き続き信頼性保証体制の充実に取り組む
100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 目の病気を正しく理解いただき、早期発見、医療機関受診につなげていただけるよう、当社ウェブサイト、冊子配布などによる情報提供の充実を図りました。 ● 病気の予防や目の疲れをとるための日常のケアの仕方、正しい目薬のさし方などに関する情報を提供しました。 	○ 患者さんや一般生活者の方々に対する有用な情報提供の充実と継続に努める
100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続してMR^{※7}による医療情報提供活動、講演会などを通じて、製品・疾患に関する情報を提供しました。 ● 医療関係者向けウェブサイトをリニューアルし、製品・疾患・医療に関する提供情報の充実を図りました。 	○ 患者さんや医療関係者の方々に対する有用な情報提供の充実と継続に努める
0件	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報提供などの活動にかかわる業界自主基準、自社ルールの教育を継続的に実施しました。 ● 医療関係者や患者団体との関係性にかかわる情報を公開しました。 	○ コンプライアンス確保のための教育機会と内容の充実と実施、体制面の強化に取り組む

※4：進階＝製品開発が次の段階に進むこと ※5：EMEA＝ヨーロッパ、中東およびアフリカ(Europe, the Middle East and Africa)

※6：EU-GMP＝European Union - Good Manufacturing Practice. 欧州連合における医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準 ※7：MR＝Medical Representativeの略。医療情報担当者

2015年度CSR活動総括 (KPIによる評価と次年度の活動方針)

CSR推進 中核領域	中期活動テーマ	ゴール	Plan	活動項目	Check	KPI※1	(目標値)
公正な事業取引 P17	事業取引における コンプライアンス 確保	取引先との 事業活動において コンプライアンス逸脱事象が 発生していない	●コンプライアンス意識を醸成する		社員研修実施率	100%	
			●コンプライアンス確保のための 仕組みを整備・運用する		問題事象発生件数	0件	
尊重 P18	事業活動における 人権尊重	事業活動全般において 人権が尊重され差別のない 社会の実現に貢献している	●人権尊重意識を醸成する		問題事象発生件数	0件	
労働・安全衛生 P19~22	働きがいのある 職場環境づくり	年齢、性別、国籍、 雇用形態の違い、障がい の有無などにかかわらず、 社員が成長する機会が 公平に与えられ、 働きがいのある職場が 形成されている	●ダイバーシティ(多様性)を推進する		障がい者雇用率	2.1%以上	
			●人材の育成を推進する		研修実施率	100%	
	安全衛生の確保	社員の健康と安全を 最優先した 働きやすい職場環境を 実現している	●社員の安全を確保する		無責事故※2を除く 休業を伴う災害	0件	
			●社員の衛生を確保する		眼科検診受診率	100%	
環境保全 P23~24	地球温暖化対策	事業活動と両立する 地球温暖化対策により、 環境負荷低減に貢献している	●CO2削減に向けた取り組みを推進する		CO2排出量	24,311 t-CO2 以下	
	排出・廃棄対策	化学物質の 適正管理の維持、および 廃棄物削減により 環境負荷低減に貢献している	●ゼロエミッション活動を推進する		廃棄物最終処分率	0.07% 以下	
			●環境汚染を予防する		法令遵守率	100%	
環境保護	生物多様性の維持に 貢献している	●環境保護活動を実施する		貢献活動の 継続実施	100%		
社会貢献 P25~28	事業分野における 医療の発展と 福祉の充実	眼科領域における 医療の発展と福祉の充実に 貢献している	●患者さんや支援団体などへの 貢献活動を充実する		貢献活動の 継続実施	100%	
			●医療関係者への貢献活動を実施する		助成などの 継続実施	100%	
	企業市民としての 活動	地域コミュニティとの コミュニケーションと連携により、 信頼関係が構築されている	●社会貢献活動を実施する		貢献活動の 継続実施	100%	

※2：無責事故 = 停車中に追突されるなど、本人および当社に過失がない交通事故

※1: KPI (Key Performance Indicator) = 目標の達成度合いを計る指標。定性的なKPIは目標値を100%としています

▶ (実績値)	実績と自己評価	Action 次年度の活動方針
100%	<ul style="list-style-type: none"> 入社時および管理職登用時に、対象者全員に教育・研修を実施しました。 部門ごとに、業務内容に応じた教育・研修を継続的に実施しました。 トップメッセージの発信など、全役員・社員を対象に啓発を実施しました。 全社を対象にリスク評価を行い、結果を踏まえた教育・研修などを実施しました。 	○ コンプライアンス意識醸成のための教育機会と内容の充実に取り組む
0件	<ul style="list-style-type: none"> 事業環境変化などに応じ、社内規程の整備・改訂を実施しました。 監査などのモニタリングを継続的に実施し、コンプライアンスが確保されていることを確認しました。 	○ 事業活動のグローバル化に伴い、グループ会社全体を通じた規程などルールの見直し、体制の強化に取り組む
0件	<ul style="list-style-type: none"> 入社時および管理職登用時に、対象者全員に研修を実施しました。 日頃から人権について考える機会をつくることを目的に、全社員を対象に人権標語を募集し、優秀作品のポスターを全事業場に掲示しました。 ニュースレターを継続的に発行し、職場での対話を推進しました。 	○ 一人ひとりの倫理観・人権尊重意識をより高めるため、対話型研修など教育内容と機会を充実する
2.06%	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用率は前年度比0.1%向上し、ほぼ目標を達成しました。 障害者雇用促進法の改正に伴い、社内教育、相談機能の設置を行いました。 育児休業対象者全員が育児休業を取得後、職場復職。女性管理職比率も前年度比1.1ポイント向上し9.7%となりました。 	○ 引き続き障がい者雇用推進に取り組むとともに、「女性活躍推進法」に則り策定した計画の実行など、諸施策を着実に推進する
100%	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念に基づく求められる人材像を定義し、それと連動した新人事制度の導入と展開を推進中です。 階層別研修、スキル研修の充実を図り、スキル研修ではオンライン講座など、より受講しやすい環境を整えました。 	○ 引き続き新人事制度の運用・浸透と各種研修の充実を図り、人材の育成に努める
3件	<ul style="list-style-type: none"> 全社・事業場ごとに目標・計画を立案し、職場巡視、業務環境に応じた教育・研修などを行う安全衛生マネジメントに取り組みましたが、目標の達成には至りませんでした。 災害発生時に備え、計画に基づいた予防策の実施と防火防災訓練を行いました。 交通違反・事故の防止と削減に継続して取り組みました。 	△ 他社の取り組み事例も積極的に取り入れ、より一層の社員の安全確保に努める
69%	<ul style="list-style-type: none"> 眼科領域に特化した企業として、全社員を対象に眼科健診を実施しました。 厚生労働省の指針、社内方針に基づいて、実行計画を策定し、取り組みました。 メンタル疾患による休職者を対象に、社内の専門教育を受けた者による支援を継続的に実施し、復職後の再休職者数は低い水準で維持しました。 	△ 「労働安全衛生法」改正対応として職場ストレスチェックを着実に進めるとともに、新入社員や営業オフィスなどへの支援の充実を図る
23,751 t-CO ₂	<ul style="list-style-type: none"> 工場などの主要事業場における省エネルギー対策を継続的に推進しました。 全事業場で、継続的な節電対策に取り組みました。 上記施策により、CO₂排出量の削減目標を達成しました。 	○ CO ₂ 排出量削減は社会的課題であるとの認識のもと、参天製薬グループ全体として継続して取り組みを推進する
0.02%	<ul style="list-style-type: none"> 法令や条例などの規制に従い、廃棄物を適正に処理しました。 使用資源の削減、再利用、再資源化の3R(リデュース、リユース、リサイクル)をさらに推進し、2015年度目標の0.07%以下を達成しました。 	○ 廃棄物最終処分率0%に向けた計画の立案と推進に取り組む
100%	<ul style="list-style-type: none"> 法令や条例に従い、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動などの継続的なモニタリングを行い、定められた基準を遵守しました。 各事業場において、化学物質マネジメントシステムを運用し化学物質の適正管理に努めるとともに、事故発生時の汚染防止に備えた訓練を計画的に実施しました。 	○ 海外子会社も含む参天製薬グループ全体としてのマネジメント体制の整備・確立に取り組む
100%	<ul style="list-style-type: none"> 主要事業場周辺の美化活動を地域とも連携して行いました。これら事業場周辺や地域の環境美化活動には、延べ527人が参加しました。 生物多様性保全にもつながることから、継続的に森林保護活動を支援しました。 	○ 環境保全・美化に関する社員の啓発と、事業場周辺地域と連携した活動を、継続して推進する
100%	<ul style="list-style-type: none"> 疾患啓発を目的とした市民公開講座への支援を継続して行いました。 視覚障がい者支援団体主催イベントに社員がボランティアとして継続参加しました。 育成団体の協力を得て盲導犬について知っていただく機会を持ちました。 盲導犬育成事業、視覚障がい者団体主催イベントの支援を継続して行いました。 	○ 疾患啓発、患者団体、視覚障がい者団体などの支援に、継続して取り組む
100%	<ul style="list-style-type: none"> 眼科領域を中心とした医学・薬学の発展を目的に、研究活動および研究者育成に対する支援を継続して行いました。 国内における角膜移植の普及や、発展途上国を中心とした失明予防活動、眼科医育成プログラムに対する支援を継続して行いました。 	○ 眼科領域を中心とした医学、薬学、医療の発展・活動の支援に、継続して取り組む
100%	<ul style="list-style-type: none"> 主要事業場立地地域と連携し防災・防犯活動などに取り組みました。 当社子会社が、台湾南部地震被災地支援を目的に100万台湾ドルを寄付しました。 当社従業員組合が主体となり、継続して、東日本大震災被災地域の復興支援活動を実施しました。 	○ 企業市民としての責務の一環として、継続して事業場立地地域をはじめとした社会貢献活動に取り組む

2016年度活動項目



参天製薬は、CSR活動の実践において、年度ごとに活動項目とKPI[※]の見直しを行っています。2016年度は、以下の活動項目とKPIを設定しました。設定した指標に基づき、PDCAサイクルを着実に回し、CSR活動のさらなる充実を図ってまいります。

※KPI (Key Performance Indicator) = 目標の達成度合いを計る指標。定性的なKPIは、目標値を100%としています

CSR推進 中核領域	中期活動テーマ	ゴール	活動項目	KPI	(目標値)	
CSR マネジメント	ステークホルダー エンゲージメントの 確立	多様なステークホルダーの意見を収集し、CSR活動に反映する仕組みが完成している	●情報開示を充実する	グループ全体での情報開示推進 (対計画)	100%	
			●ステークホルダーとの対話 (ダイアログ)を充実する	ステークホルダーとの対話の 継続実施	100%	
			●参天製薬グループのCSRの考え方、 業務とのかかわりの社員への理解・ 浸透を図る	入社時・管理職登用時の 研修実施	100%	
	リスクマネジメント システムの確実な運用	参天製薬グループ全体として、基本理 念に基づく内部統制体制が整備され、 コンプライアンス・リスクマネジメント が確保されている	●各CSR委員会を通じ、 コンプライアンス、安全衛生、 防火防災、環境保全を推進する ●参天製薬グループ全体としての 内部統制体制の強化	CSR委員会開催 (CSR関連5委員会)	年2回	100%
適正な製品・ サービスの提供	優れた製品の 開発と提供	医療ニーズに対応する製品を開発し、 安定供給している	●優れた製品を研究・開発する	着実な新製品の開発と提供	100%	
			●製品を安定的に供給する	供給にかかわる重大な支障件数	0件	
	製品・疾患に関する 情報・サービスの提供	目に関する最新の情報を提供し、早期 発見、適正治療に貢献している	●製品の信頼性を確保する	製品回収件数	0件	
			●患者さんや一般生活者に 有用な情報を提供する	情報提供の継続実施	100%	
医療関係者・患者団体 とのコンプライアンス確保	医療関係者・患者団体とのコンプライ アンス逸脱事象が発生していない	●医療関係者に有用な情報を提供する	情報提供の継続実施	100%		
		●コンプライアンス確保のための 仕組みを整備・運用する	重大な問題事象発生件数	0件		
公正な 事業取引	事業取引における コンプライアンス確保	取引先との事業活動においてコンプラ イアンス逸脱事象が発生していない 加えて、当社のみならず、取引先におい ても、法令遵守、人権尊重、環境保全な どの社会的責任が確保されていること を確認している	●コンプライアンス意識を醸成する	教育・啓発実施(対計画)	100%	
			●コンプライアンス確保のための 仕組みを整備・運用する	重大な問題事象発生件数	0件	
			●取引先における社会的責任の 確保状況を確認する	確保状況確認実施(対計画)	100%	
人権 尊重	事業活動における 人権尊重	事業活動全般において人権が尊重さ れ差別のない社会の実現に貢献して いる	●人権尊重意識を醸成する ●研究・開発、製造などの各過程における 人権尊重を確保する	重大な問題事象発生件数	0件	
労働 安全衛生	働きがいのある 職場環境づくり	年齢、性別、国籍、雇用形態の違い、障 がいの有無などにかかわらず、社員が 成長する機会が公平に与えられ、働き がいのある職場が形成されている	●ダイバーシティ(多様性)を推進する	啓発活動の実施(対計画)	100%	
			●人材の育成を推進する	新人事制度のグループ内展開 (対計画)	100%	
	安全衛生の確保	社員の健康と安全を最優先した働き やすい職場環境を実現している	●社員の安全を確保する ●社員の衛生を確保する	無責事故 [※] を除く休業を伴う 業務災害件数	0件	メンタルヘルス対策の実施(対計画)
環境 保全	地球温暖化対策	事業活動と両立する地球温暖化対策に より、環境負荷低減に貢献している	●CO ₂ 削減に向けた取り組みを 推進する	CO ₂ 排出量	23,414t- CO ₂ 以下	
	排出・廃棄対策	化学物質の適正管理の維持、および廃 棄物削減により環境負荷低減に貢献 している	●ゼロエミッション活動を推進する	廃棄物最終処分率(2020年目標)	0%	
	環境保護	生物多様性の維持に貢献している	●環境汚染を予防する	法令遵守率	100%	
社会 貢献	事業分野における 医療の発展と福祉の充実	眼科領域における医療の発展、失明予 防活動ならびに福祉の充実に貢献し ている	●患者さんや支援団体などへの 貢献活動を充実する	貢献活動の継続実施	100%	
			●医療関係者への貢献活動を実施する	助成などの継続実施	100%	
	企業市民としての活動	地域コミュニティとの継続的対話と連 携により、信頼関係が構築されている	●社会貢献活動を実施する	貢献活動の継続実施	100%	

※無責事故 = 停車中に追突されるなど、本人および当社に過失がない交通事故

会社概要 (2016年3月31日現在)

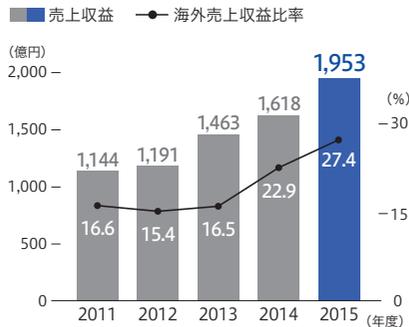
社名：参天製薬株式会社
 本社：〒530-8552 大阪市北区大深町4番20号
 グランフロント大阪 タワーA
 創業：1890年
 資本金：7,695百万円
 従業員数：3,463名(連結)

〈事業概要〉

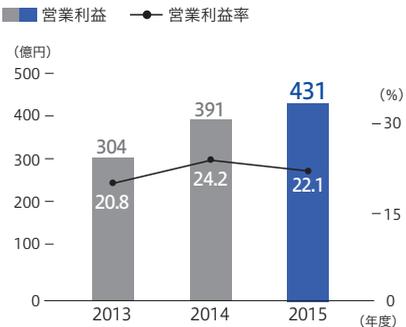
参天製薬グループは、「目」をはじめとする特定の専門分野を中心として、日本、アジア、EMEA*などでグローバルに事業を展開しています。医療現場における各地域の特性を十分に考慮し、医師・薬剤師とともに、患者さんの治療に貢献できる製品を提供し続けることが、私たちの使命と考えています。

*EMEA=ヨーロッパ、中東およびアフリカ (Europe, the Middle East and Africa)

売上収益および海外売上収益比率



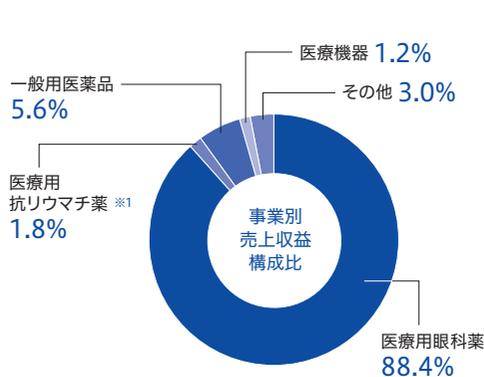
営業利益および営業利益率(コアベース[※])



研究開発費および研究開発費対売上収益比率



(注) 参天製薬グループでは、2014年度から国際会計基準(IFRS)を適用しています。2013年度の諸数値はIFRSに組み替えて、2012年度以前の数値は日本基準に基づき算出しています。
 ※コアベース=IFRSフルベースから、一部の収益・費用(製品に係る無形資産償却費、その他の収益、その他の費用、金融収益、金融費用)を控除した数値。経常的な業績を示しています



医療用眼科薬

「シカス」「タブロス」「アレジオン」

国内市場シェア **44.0% 1位^{※2}**

一般用医薬品

「サンテボーティエ」

国内市場シェア **24.3% 2位^{※3}**

※1：2015年8月、抗リウマチ薬事業をあゆみ製薬株式会社へ承継しました。
 ※2：2015年度の市場シェアおよび国内地位(出典：IMS-JPMデータに基づく参天製薬分析)
 ※3：2015年度の国内一般用点眼薬市場でのシェアおよび市場地位(出典：参天製薬集計資料)
 ©2016 IMS-Health IMS-JPM2015.4-2016.3をもとに参天製薬分析 無断転載禁止

参天製薬の歴史

「大学目薬」の誕生

参天製薬の創業は今から120年以上前にさかのぼります。現在、医療用眼科薬(目薬)の売上高が全体の8割以上を占め、国内トップ、世界有数の眼科薬メーカーとなった参天製薬ですが、その始まりは意外にも目薬ではありませんでした。そして、創業から9年後、初期の成長を支えたヒット商品、「大学目薬」を発売。初代製品の発売から100年以上が経過した現在でも、日本でいちばんのロングセラー目薬としてそのブランドが引き継がれています。

1899(明治32年)「大学目薬」を発売

明治初期、来日した外国人医師は一概に日本人に眼病が多いのに驚いたといいます。それほどまでに当時、日本には目薬に対する大きな需要があったのです。そこに登場したのが、「大学目薬」。「世の進むに従い、目薬にもこんな立派なものができました」という自信に満ちあふれた宣伝コピーと、権威ある大学教授をイメージさせる、ひげとメガネの博士の商標で、たちまち日本全国に広まりました。



目薬に特化

第二次世界大戦の戦災により本社および大阪市内3工場を焼失し、苦難の時代を迎えます。この苦境を乗り切ったのは、いち早く目薬事業への特化を打ち出し経営資源の集中を行った決断力と先見性でした。

1952(昭和27)年目薬中心の事業戦略で会社再建を図る

1952(昭和27)年「大学ベニシリン目薬」、1953(昭和28)年「大学マイシリン目薬」、1954(昭和29)年「大学スーパー目薬」を発売。



医療用が中心に

医療用医薬品の「チモプトル」「タリビッド」「リマチル」などの新薬が相次ぎ、急成長期を迎えます。それに合わせて事業も拡大し、大阪に中央研究所、石川県に能登工場を開設、さらに全国各地に営業所を新設するなど、国内拠点の拡充を進めました。

新たな成長ステージへ

国内の医療用眼科薬事業で築いた基盤をもとに、海外事業展開を積極化。1993(平成5)年米国、1994(平成6)年ドイツ、1997(平成9)年フィンランドに拠点を設立したのをはじめ、現在、日本を含め19カ国に23拠点を構え、臨床開発・製造・販売を行っています。



下記の販売名は、提供会社の登録商標です。
「アイリーア」(バイエル アクチエンゲゼルシャフト)
「アレジオン」(ペーリンガーインゲルハイム)
「タリビッド」(第一三共株式会社)

2016年8月発行

参天製薬株式会社

連絡先：CSR・業務本部 CSR室

〒530-8522 大阪市北区大深町4番20号
グランフロント大阪 タワーA

TEL 06-4802-9596 FAX 06-6359-3827
<http://www.santen.co.jp>